

## 令和3年度 第3回小山市民フォーラム 議事録(定稿)

1. 日時 令和4年3月20日(日)14:00~17:00

2. 会場 小山市役所7階委員会室(傍聴者はオンライン)

3. 参加者等

(1) 運営委員

阿久津 治(委員長)、佐藤 佑子(副委員長)、海老沼 和彦、平野 明宏  
戎 奈央、関口 絵里加

(2) 参加者 30名

(3) 小山市 浅野正富市長、雲井富雄副市長、坪野谷統勇総合政策部長、古川都市民生  
活部長

(4) 協力課 日高正展国際政策課長、木下怜国際専門監兼多文化共生推進係長、本間早  
也香

(5) 事務局 篠原正シティプロモーション課長、柿崎泰延シティプロモーション係長、松  
本卓、青木真央、福田直行、藤井優

4. テーマ

「外国人にも暮らしやすい小山にするためには？～多文化共生について考えよう～」

5. スケジュール

開会(司会)

市長あいさつ

運営委員長あいさつ

運営委員紹介、市出席者紹介

意見交換①海外文化と日本文化の違い

～途中休憩(換気)～

意見交換②小山で多文化共生を推進するには？

閉会のあいさつ(市長)

閉会(司会)

6. 発言

○篠原シティプロモーション課長

皆さんこんにちは。定刻となりましたので、ただいまから令和3年度第3回小山市民フォーラムを開催いたします。司会のシティプロモーション課の篠原です。よろしくお願いいたします。本日の市民フォーラムは Zoom 録画及びテレビ小山放送で録画され、後日コミュニティチャンネル等で放送されます。また、お写真を撮らせていただいて広報おやまにも掲載させていただきますので、ご了承よろしくお願いいたします。

本日は、残念ながら栃木県のまん延防止等重点措置が、明日までですので、傍聴の方は、別室にて Zoom で参加となります。また参加者の間隔をあげ感染対策を施した上で進行させていただきますので、ご協力よろしくお願いいたします。

開会にあたりまして浅野市長からご挨拶申し上げます。

## ○浅野市長

皆さんこんにちは。本日は大変お忙しい中、令和3年度第3回小山市民フォーラムに参加いただきまして誠にありがとうございます。今年度の市民フォーラム1回目が9月、緊急事態宣言下でございましたので、オンラインで開催いたしました。12月が対面、そして本日3回目ですが、まだまん延防止等重点措置の適用中ですので、Zoomを併用した開催方法を予定しておりましたが、ほとんどの参加者の方がこの会場にお越しいただき、ほぼ対面型での開催ということになるかなと思っております。

1回目が、小山駅周辺のまちづくり、そして2回目が、『「私が」住みやすい小山にするためには』というテーマで、1回目2回目もまちづくり関連のテーマだったわけですが、本日は趣を少し変えまして、「外国人も暮らしやすい小山にするためには？～多文化共生について考えよう～」のテーマで行うことになりました。

小山市に、今外国人の方が約70ヶ国から7000人近くの方がお住まいになっております。市長就任前は、外国人の方が何名いらっしゃるかということについては知らなかったんですけども、市長就任後、人数7000人弱だということで、改めて小山市が国際社会になっていることを実感した次第です。人数的には、人口の24人に1人は外国人の方になります。ですから、本当に外国人の方と共生していくことが非常に重要な課題になってくるわけです。それで共生という場合に、日本に来ていただいたんだから、日本のしきたりに従ってもらいましょう、というのが共生ではございません。やはり70ヶ国から来ていただいておりますので、その多様性、多文化、そういうものを前提としなければ、それは共生ということにならないだろうと。お互いが、多様性、多文化であるところを理解して暮らしていくためには、とにかくお互いを理解するために、お話をするところからしか始まりませんし、単にお話をするだけでなく、様々な活動・イベントを通して、体験を共にすることが必要なかなと思っております。

私は、湿地保全のNGOとして韓国の方と、日韓NGO湿地フォーラムというのを2007年頃から毎年やっていました。私たちが韓国に行く、韓国の方が日本に来ることで、毎年フォーラムをやっていたんですけども、イベントをやるに当たっても、その準備の仕方など、考え方が全然違うというのを一緒に活動する中でわかりましたし、どうやったらお互いがその違いを乗り越えて、うまくそういうイベントを開催できるんだろうと、工夫を重ね、時には喧嘩もしましたし、そういうことを何年も繰り返していくうちに徐々に徐々に理解が深まってきた体験しております。ですからこれから、小山市を国際社会としての自治体である小山市ということで、皆さんがそういう状況で、より良いものにしていくためには、時間をかけて繰り返しいろいろなことを試みていくことは、とても重要なことと思っております。先ほども言いましたように、時には喧嘩することもあるかもしれませんが、失敗することもあるかもしれませんが、でも、やはりその繰り返しの中でお互いを理解し、そして関係を深めていくことができるんだろうと思っております。

小山市でこういう非常にざっくばらんな意見交換、外国の方と意見交換するのが、今まであまり試みられてなかったことと思います。今日を皮切りに、小山市も本当に多文化共生社会を目指すということで、時間をかけて実りある、そういう社会を築いていくための第1歩にできればと思っておりますので、どうぞ最後までよろしく願いいたします。

## ○篠原シティプロモーション課長

ありがとうございました。続きまして本日の出席者の方をご紹介します。本日は、10代

から70代の方、お申し込みにつきましては32名で、残念ながら2名今回欠席なものですから、30名の皆様にご参加いただいております。ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

それでは運営委員として企画運営に尽力いただいております6名の市民の方を代表して阿久津委員長からご挨拶申し上げます。

#### ○阿久津委員長

皆さんこんにちは。3月の年度末の忙しい時期、また先ほどもお話ありましたが、コロナ禍の中、集まっていただきましたことを本当に嬉しく思います。ありがとうございます。

私、委員長を仰せつかっております阿久津治と申します。仕事は、小山駅西口で薬局薬店、飲食店、不動産賃貸業等やっております。本日多文化共生ということで、テーマになっております。先ほど市長からもあったのですが、今までこういうことってなくて、今日は市長も副市長もいらっやっています。

行政の方々と、我々民間の委員とこうして海外の方々、住んでらっしゃる方、お仕事してらっしゃる方、たくさんいると思うんですけども、こういうお話し合いができることは、何か本当に一歩踏み出せるのではないかなと。本当に今日は、たくさんの皆さんのご意見が出て、活発かつ有意義な時間になればと思っております。かといって固くならず、本当に言いたいことを言って帰ってもらえればと。喧嘩はしない方がいいですけども。正しくとにかく話せればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。以上でございます。

#### ○篠原シティプロモーション課長

ありがとうございました。続きまして、その他の運営委員様につきましてご紹介させていただきます。副運営委員長 佐藤佑子様、運営委員 海老沼和彦様、平野明宏様、関口絵里加様、戎奈央様です。本日、市内在住外国人の方3名にご協力いただいて、前にお座りいただいておりますのでご紹介いたします。竹本真誠さん、川名美香さん、ネウパネ・カピルさんです。

#### ○竹本真誠氏

こんにちは、竹本真誠です。私はペルー出身で7歳のとき日本に来ました。現在36歳です。よろしくお願いいたします。

#### ○川名美香氏

こんにちは、川名と申します。よろしくお願いいたします。

#### ○ネウパネ・カピル氏

皆さんこんにちは。本日は、この素晴らしい市民フォーラムに参加させていただきありがとうございます。私は2013年にネパールから留学してまいりました、ネウパネ・カピルと申します。2017年に小山市に転入し、小山市内で飲食店カレー屋ポカラというお店を経営しております。どうぞ本日よろしくお願いいたします。

#### ○篠原シティプロモーション課長

続きまして改めて市側の出席者をご紹介いたします。浅野正富市長、雲井富雄副市長、坪野谷総合政策部長、古川市民生活部長です。よろしくお願いいたします。それでは本日のご予定

をご案内いたします。開催概要をご覧ください。本日のテーマは「外国人も暮らしやすい小山にするためには？多文化共生について考えよう」です。初めに、小山市の国際政策について国際政策課から簡単に説明いただきます。皆様から事前にいただきましたご意見、それをお手元の資料にあるように、①「海外文化と日本文化との違い」、②「小山で多文化共生を推進するには」の二つに分けてあります。最後に、その他として自由に意見交換を設けてまいりたいと思います。

15時20分に、いったん休憩と換気をさせていただき、閉会は17時を予定しています。よろしく願いいたします。進行方法は、こちら前におります運営委員さんを進行役に、皆様からテーマに関するご意見をいただきまして、適宜市長、その他市側からも、補足説明や意見をいただきます。

発言をされる際は、挙手をお願いしお名前をおっしゃってから発言をお願いいたします。マイクは、事務局から操作しますので、特に皆様は操作の必要はありません。皆様にご発言いただくために2分以内でお願いし、事務局から残り1分になりましたらベルを1回鳴らしていただいて、30秒ベル2回、最後に3回鳴らしましたら発言を中止ということで願います。それと、目の前にマイクありますが、なるべくマイクの近くで発言してもらおうとよく聞こえますので近くでお願いいたします。

意見交換に入ります前に、本日の市民フォーラムで、今も「外国人」と、呼び方をさせていただいてるところなんですけれども、国籍が日本でない方を私たち日本人は、外国人ですとか外国の方、海外の方、外国人住民、外国人市民など様々な呼び方をします。事前に運営委員会でも、それにつきましては、どんな呼び方がその人たちにとっていいだろうと議論させていただいたんですけれども、お考えとか、呼び方によっていろいろ差が出てきますので、本日の市民フォーラムではテーマにありますように外国人という呼び方を推奨いたしますが、各自それぞれの呼び方使い方をすることで、ご理解いただくようお願いいたします。

それでは、初めに小山市の国際政策について国際政策課から説明をさせていただきますのでよろしく願いいたします。

## ○日高国際政策課長

皆様、こんにちは。私は小山市国際政策課日高と申しますのでどうぞよろしくお願いいたします。

私からは小山市の国際政策について、説明をさせていただきます。時間も余りありませんので、主なところについて、説明をしたいと思っております。お手元の資料の7ページをご覧くださいと思います。今回のテーマが外国人にも暮らしやすい小山にするためにはになっておりますので、基本的な部分としまして、小山市にはどのぐらい外国の方が住んでいるのか、どこの国の方が多いいのか、そういったことについて説明をさせていただきたいと思っております。

一番の、市内の外国人構成で、こちらは昨年の10月時点の人数となります。先ほど最初の挨拶で市長からもお話がありました通り、小山市は外国人数と人口割合ともに県内2番目でありまして、約70国籍の方が居住していることから、外国人集住地域の一つと言えます。

外国人の人数と人口割合がその下の表に載っております。全国で約288万人、人口割合で申し上げますと約2%となります。栃木県が4万2828人、同じく2.19%、そこで一番下に小山市としまして、6,858人で人口割合は4.1%となっております。

これは全国平均が約2%ですので2倍ちょっといるということで、先ほど市長からもありま

したとおり、かなり小山市に多くの外国人が住んでいるということになります。それではどこの国の方が多いのかですが、二つ目の表のところに上位5カ国を記載させていただきました。

上からで、ブラジル、ペルー、フィリピン、ベトナム、パキスタンという順序になっております。こちらの上位5カ国の人数を足しますと小山市の外国人の方の人口の約58%を占めておりますので、この5カ国で6割近くを占めております。

どういう方が多いのかということですが、まず一番目のブラジル、ペルー、フィリピンこちらの方は、特徴としましては、人材派遣会社に所属している方が多く、永住者とか定住者といった長期間小山に住んでる方がほとんどとなります。それからベトナムの方は、技能実習生ですとかエンジニアの方が多く、5番のパキスタンの方は中古車の輸出業などの仕事に関わっている方が多い特徴がございます。

それから続き二番目の組織の説明です。私ども国際政策課は、国際関係を集約させた部署として令和2年4月に新設されちょうど満2年が経ったところです。多文化共生推進係と交流推進の二つの係があり記載のような事業を行っております。

ページをめくっていただいて、8ページをご覧ください。それでは具体的にどのようなことをやっているのかということになるんですが、3番の多文化共生社会推進のための事業について、様々な事業を進めているところです。具体的な取り組みとしまして4点ほど挙げさせていただきます。

まず(1)の「小山市多文化共生社会推進計画の策定」ということで、小山市では外国人住民、日本人住民が同じ市民として、文化や習慣、価値観の違いを認め合いながら、多文化共生の社会づくりを計画的、総合的に展開することを目的として「小山市多文化共生社会推進計画」を、令和2年3月に策定しました。この計画に基づきまして、日本人外国人両方にとって住みやすいまちづくりを現在目指しているところです。

計画に基づきました、具体的な内容になりますが、(2)としまして「多文化共生総合支援センター」の整備・拡充。こちらは、市役所の1階にあります、外国人相談窓口、多文化共生総合支援センターを設置しております。多言語による相談体制ということで現在、英語・スペイン語・ポルトガル語・やさしい日本語で対応しております。来庁者の相談を解決できるように、必要な部署への案内や通訳等を行っております。昨年5月の新庁舎の移転の際には、相談窓口直通のメールアドレス新設、電話番号を増設するなど拡充を図りました。

今後の新たな試みとしましてはオンラインでの相談やタブレットを用いたTV通訳の導入、案内ガイドブックの作成を進めているところで、皆様のお手元に、こちらが今月完成しました案内ガイドブックとなります。あとでご覧いただければと思います。それから来年度予定しております、タブレットの件なんですけど、こちらはiPadのタブレットの画面に、通訳のオペレーターの顔が出まして、直接顔を見ながら、お話をしながら、通訳ができることになっております。すいません、7ページに戻っていただきたいんですけど、先ほど国別のところに、ブラジル、ペルー、フィリピンとありますが、こちらブラジルについてはポルトガル語、ペルーについてはスペイン語、フィリピンについてはタガログ語・英語で、この上位3国については、1階に、言語を話せる通訳の方がいらっしゃるんですけど、4番目のベトナム語と5番目のパキスタンのウルドゥー語なんですけど、こちらの2カ国については英語でも対応できないものですから、こちらのiPadを導入すれば、そちらへも対応できると考えております。

それでは8ページの方に戻っていただきまして、(3)関係団体との連携ということで、小山市では外国への情報発信について、重点を置いております。昨年は、コロナ感染拡大防止のた

めの、外国人と関わりの深い団体、人材派遣会社ですとか飲食店、学校関係者等と連絡会議を行ったり、メーリングリストを作成して情報の共有を図っております。また市内には、人材派遣が多いとお話をさせていただきましたが、そういった存在が多く外国人が関わりを持っていることから、そういった企業間でも迅速な情報共有できるようなネットワークの構築を形成したところなんです。その他にも、今月となりますが、多言語のフェイスブックを立ち上げるなど、情報発信にも力をいれております。

最後の(4)多文化共生、やさしい日本語の研修ということで、円滑なコミュニケーションの支援をツールとしまして、令和2年から職員向けのやさしい日本語活用講座を開催しております。やさしい日本語というのは、外国人の方にも、理解できるよう、わかりやすい言葉や表現に変えた言葉で日常の外国人とのコミュニケーションに非常に有効だと言われております。こういった市民向けのやさしい日本語講座の実施ですとか、今後は、多文化共生のフォーラムの開催なども考えております。

皆さんお手元のチラシ、来週 3 月 26 日の土曜日に開催予定しております、市民の方向けの、やさしい日本語講座をオンラインで予定していますが、そちらも開催を予定しておりますので興味がありましたら、ご参加ください。

簡単に説明をさせていただきましたが、こうした取り組みを通じて、外国人の方に小山市のことを少しでも理解していただければと考えております。よろしく願いいたします。

#### ○篠原シティプロモーション課長

ありがとうございました。それではここから運営委員の皆様へ進行をお願いして、早速意見交換に入りたいと思います。テーマ①「海外文化と日本文化の違い」を佐藤副委員長、海老沼委員、関口委員の進行により、よろしく願いいたします。

#### ○佐藤副委員長

副運営委員長させていただきます佐藤です。よろしく願いいたします。ここから運営委員3名が進行させていただきますので、限られた時間ではありますが、多くのご意見により有意義な意見交換となりますよう、よろしく願いいたします。

最初に手を挙げるのは、勇気がいると思います。まず昨日卒業式をなされた、運営委員の大学生、関口さんお伺いします。

#### ○関口委員

こんにちは、関口絵里加と申します。ご紹介いただいたように、昨日、白鷗大学を卒業しまして、来年度から、新社会人として、頑張っていきたいと思っております。今回のフォーラムに関しまして、参加者の方にも 10 代の方、若い方がいらっしゃったりとか、私が所属しておりますサックトおやまという、プロモーションチームがございまして、そのプロモーションチームのメンバーも参加して下さったりと、本当にたくさんの方々に参加くださって、とても有意義な意見交換ができることを楽しみにして参りました。よろしく願いいたします。

今まで学生として過ごしてきた中で、学生という若い立場より、外国人との共生について、お話していきたいなと思ってました。一言で申しますと、若い世代にとって、外国人と日本人の共生は、割と当たり前になってきているように私は感じております。クラスに 1 人、2 人外国人の方がいたりとか、当たり前のように日本語を話す外国人の方がいたりっていうのを、目に

してきているのであまり距離を感じないで接することが、今までできてきたと思っています。

一方で、こういった外国人に対する偏見も、大きな問題になっているのかと感じていました。例えば、外国の方に対して治安が悪いイメージがあるとか、日本語が話せないことで距離を置いてしまう方がいたりとかという感じで、近年ではコロナウイルスによって留学もなかなかできなくなってきている今、外国人と日本人との距離感っていうものが徐々に近寄っているように見えて意外と、距離を感じるようになってきてしまっているのが、個人的な意見です。こういった中で、共生社会を実現させていくために、外国と日本とが離れていても手を取り合って、互いの文化を理解していくことが、とても大切だと感じております。今日は皆さんの意見をお聞きしながら、これから社会に出る上で役に立つことをたくさん学んでいきたいと思しますので、皆さんよろしくお願いたします。

### ○佐藤副委員長

ありがとうございます。私の自己紹介をさせていただきますと、小山市に在住して、8年前に引っ越してきました。小山市の豊田地区、北の方にある小宅とって、田園地帯に住んでいるんですけども。10年前に学生時代をしております、そのときにアメリカのラスベガスに4年半くらい住んでいました。英語が少し話せるのと聴けるんですけども、読めないし書けないですね。話すのは得意ですけども、やっぱり留学経験があったというのもありまして、何も喋らないで海外に行ってしまったんですね、勢いで、若さですね。今でも行けるっていえば、行けるんですけども。そうするとやっぱり喋れないで行くと、勢いで喋って、何言ってるかわからないって言われるんですけど。私は性格は、気が強かったんで、分かってくださいと、ぐいぐい喋っていたんですけども、日本に引っ越してこられた、外国人の市民の方は、そこまで私みたいに強い性格じゃない方もいると思うんですよ。なのでそういうふうにいるとか、分からないとか、日本語って敬語とか、分かんないんですけど、カタカナひらがな漢字ありすぎだよとか、それでも一生懸命勉強している方を私は知っておりますし、そういうのも含めて、ここちょっとおかしいよとか、分かんないとか、楽しいよとか、重苦しい雰囲気ではないものも、皆さんおっしゃっていただければなと思いますのでよろしくお願いたします。

早速ですが1番目に何か言いたいなっていう方はいらっしゃいますでしょうか。挙手でお願いたします。

### ○参加者

私は、以前職場でコンビニの店長をしていました。店長をしてまして、外国人のアルバイトの方とか、結構関わる事が多くて、実は春から日本語学校で就職する話も出てきて、決まったんですけども。いろいろ外国人と接してかつ、日本人ともお客様相手として接したときに、すごく感じたのは、外国人に対しての先入観が、先ほども出ましたけど、ちょっと怖いなとか、話しかけにくいなっていう印象を持たれる日本人の方も多くて、それで実際、職場では勘違いだったり、うまくコミュニケーションが取れないっていう部分でトラブルがあったんですね。ただ、それは結論から言いますと解決しました。

私が行ったことは、とってもシンプルで1秒で出来ます。そして誰でも子供でも大人でもできることなので、まず何か外国人と関わる機会があれば、皆さんに、ぜひやって欲しいことがあるんですけども、それは、まず、相手の目を見て笑顔で挨拶することなんです。挨拶っていう漢字は、挨は心を開くって意味なんです。拶は近づくとって意味なんです。小学生の頃から挨

挨拶は皆さんやってきてると思うので、家族でもやってきてると思うので、難しくないと思います。日本語で最初いいと思います。こんにちは、おはようございますっていうのを、まず言ってみてください。すごく距離が縮まる感じが分かります。もし余裕があれば、どこの国ですか、ネパールですか、こんにちは、は何て言うんですか、「ナマステ」って、言ってみてください。もっと仲良くなります。私から、皆さんにまねしてもらいたいことです。

#### ○佐藤副委員長

素晴らしいご意見ありがとうございます。早速ですが。すごく素敵なお意見を、市長どう思われますか。

#### ○浅野市長

地域で、子供たちをどうやって守っていくかというときに、挨拶の習慣がとても大切ですよねということ、保護者の方とか、育成会の方とか、自治会の方とかおっしゃるんですけども、外国の方とのコミュニケーションの第1はやはり、挨拶なんだろうなというところでは、本当にすごく大事な指摘だったのかなと思います。

#### ○佐藤副委員長

ありがとうございます。次の方。

#### ○参加者

時間がないので手短かに言います。まず、テーマが気になっています。「多文化共生について考えようって」いうのが、本当は先に来た方がいいのかなと。「暮らしやすい小山」って、では今何が暮らしにくいのかとなります。逆に課題は何なのかなと気になっています。海外の文化と日本文化の違いということですが、私のコミュニケーション範囲の中にも、確かに外国籍の方が何人かいて中には若い方で、昨年日本に帰化された方もいたりするんですけども。ご両親が南米のご出身で日本語話せないですので、そのお子さんが、日本で生まれて育て、国籍は違ったんですけど、もう100%日本の文化で育てるとことで、お子さんたちが、コミュニケーションをとったり、中間の取り次ぎをしたり、そういうのをされてる方が何人かいます。そういった方々の対応も考えていかないと気になりました。

言葉のことなんですけれども、外国人って私聞いたときに、昔はそう思わなかったんですけど、最近はすごく強くなってきついなっていう言葉に感じていて、心の中では外国籍の方っていうような言い方をするようにしています。

#### ○佐藤副委員長

ありがとうございます。

#### ○参加者

前に外国の方から聞いたことがあって、私もすごく強く感じていることがあります。日本の方、目を背ける、若い子たち、大人もそうですが、外国の方たちには、さっきもお話出てましたが、目と目で笑顔でっていうのがほんとに近くなるんですね。

そもそも日本人自体が挨拶しない大人、子どももなっていると、感じるものがまます。



先ほどおっしゃったように、目と目で、笑顔で挨拶すると、反応が笑顔の目が返ってきます。それってすごく大事と思いました。私は努めてですけども、目と目で、目を見て挨拶するように心がけています。そうするとお友達感覚も近く早くなれますし、非常にいい関係を持つことができると思っております。

#### ○佐藤副委員長

ありがとうございます。挨拶のお話がもう2回ほど出ていますけれども、川名さん、例えば、挨拶については、どう思いますか。

#### ○川名美香氏

私も13歳の時から日本に来て、今年で12年目ですけども、自分が日本に来たときは、全く日本語話せない状態で、「こんにちは」、「さようなら」、「ありがとう」という3ワードだけで、地元の中学校に行っていたんですけども。結局自分が話せるワードって挨拶しかなくて。いかにそれを表現できるかっていうのが自分の当時の課題だったんですけど。やはり自分から話す勇気って、私は当時なかったんです。全部日本人だったので。自分は、ありがとう、こんにちは、おはようしか言えないので、それ以上話かけられたらどうしようっていう恐怖感があったので、なかなか自分から日本人の方に対して挨拶できなかったんです。だから、そういうことを思い返すと、日本人の方から言われるとほっとしますし、より自分の知ってるワードは少ないんですけど、話そうっていう気はなると思いますので、さっきあの方がおっしゃったように、とても大事なことと思いました。

#### ○佐藤副委員長

ありがとうございます。他にご意見ございますでしょうか。挨拶もすごく大事と、改めて、教えていただいたんですけども、この前、カピルさんから面白い話を聞きまして。例えば日本に来たら、こう思っていたらこうだったとか、ここがヘンだよ日本人じゃないけど、面白いお話も聞けると思います、よろしくお願いします。

#### ○ネウパネ・カピル氏

私は8年前に日本に来まして、日本に来る前、日本に行きましようということは、看板で日本で勉強しようというネパールで、その学校に看板で書いてあったことを見たら、ちょっと漢字見たんですね。日本語の漢字、漢字は簡単だねと思ったんです。絵書くぐらいだけなので、これなら、全然大丈夫じゃないですかと、日本語勉強し始めたんですが、やっぱり漢字は世界で一番難しかったんです。

日本語勉強してその後留学して日本に行くということで、日本に行く前に日本の事、いろいろ頭の中で想像する、新しいところに行ったらこういうところだねと、自分の頭の中で想像するんですが、私も、日本って、東京と思うんですね。だいたい海外の方々は日本と言ったら東京と思いますが、私もやっぱり東京は高いビルがあって、すごく綺麗なまちで、そういったまちだなと思いながら、飛行機に乗ってきまして、その後に成田空港の上に、着いたら窓から下見たら、高いビルがないです。違う国に来たかなと思って心配したんです。その後に飛行機の中で、成田空港到着しましたって言ったら、日本だねって思いました。そういう違いがありました。

ネパールと日本の文化、違う文化もありますし、違う習慣もありますし、先ほど参加者の方が

ら言っていた通り、「ナマステ」という挨拶、すごく大事な挨拶になります。それが日本は会ったら、「こんにちは」、「おはようございます」と、言うんですね。ネパールは、会ってもナマステ、別れてもナマステって言うんです。必ず挨拶をしますので、これからも日本人とも会話する前にちゃんと挨拶して、会話したいなと思っております。ありがとうございます。

#### ○佐藤副委員長

ありがとうございました。私も海外に旅行とか行ったとき、どこ出身ですかと言われてたら、東京とっちゃいます。ありがとうございます。他に何かご意見ありますでしょうか。事前にいただいたアンケートの中で、今までは挨拶だったり、そういう話は出てたんですけども、事前にいただいたアンケートの中で、子育ての悩みが尽きないというのもありまして、そういったご意見を伺えればなと思うんですけども、いかがでしょうか。

#### ○参加者

小山市の島田に住んでいます。子供が3人いて、上が5才、2才、0才3人の男の子がいます。夫がアメリカ人で隣にいます。私は自治医大で医師をしています。耳鼻科で働いています。子供が3人いて、ハーフって言ったり、ミックスって言ったり、すると思うんですけど。まだ小さいので、幼稚園でいじめとか当然ないんですけども、やっぱり話に聞くと、ティーンエイジャーになると、違ってしまうことをなかなか日本では受入れられない、出る杭は打たれる的なところがあるので、いじめに遭わないかなとか、文化が違う部分があるところ、どういふふうにとらえられるかなというのはまだわからない部分で、結構不安があります。子どもたちに英語を教えましょうとか、違い、バリエーションがあることが大事だとか教えてますけども、日本にいて日本人になることを一生懸命教えられてしまうと思うんですけども、外国籍の子供もそうですけど、日本にいて、日本の文化を学ぶとともにやっぱり自分のもう一つの別のルーツのところも大事にしてほしいなと思っていて、何かその部分をちゃんとサポートするっていうのをシステムティックに考えられてないというか。特に私のところはミックスだから、やっぱり英語も教えるし、おじいちゃん、おばあちゃんとコミュニケーションを取ってもらいたいので、そういうのを、そういう悩みがあったときに余り相談する相手がないんですね。もっともプログラマーで、自宅で1人で働いているので、相談しようと思っても仲間もいなくて、なかなか横の繋がりが取れないというのは一つの悩みなので、できれば何かそういうコミュニティが作れたりすればいいかなと考えてます。

#### ○佐藤副委員長

ありがとうございます。ちょうど子ども、幼少期を過ごした、竹本さんお願いいたします。

#### ○竹本真誠氏

竹本です。私はペルー出身で7歳のときに日本に来ました。小学校1年生からいるんですが、やはりおっちゃんのように、顔からみんなと違うっていうことで、やっぱり区別と言うんですか、いじめに近いものを受けました。でも、それは特に小学校、中学校ぐらいまでで、高校上がっていくと改善されていくんですが、途中から気づいたんですけども、日本で、同じ民族じゃないですか。同じ方向に同じことをみんなやっていくと、いじめって、あまりないんですね。文化が違うから、自分の当たり前だと思っていること、自分の意見を言い過ぎてしまうと、や

っぱり違うんだあのひと。孤立していくんですよね。ただ小山市には、たくさんの外国人、当初は少なかったんですが、今たくさんいると思いますので、20年ぐらい前の話ですから、改善はされていると思います。ただ、私悩んでやっと気づいたのは、同じことをやっていけばいじめられないんだっていうことでしたね。残念ながら。

#### ○佐藤副委員長

ありがとうございます。いま笑って話していますけれども、当初のときは悩まれたと思うんですけれども。市内の方ですと、日本人国籍じゃない方、ちらほらいるんですけど。田園地帯に行くと、本当に何か珍しい目で見られるなっていうのは、私も想像が出来ちゃうんですけども。海老沼委員はいかがでしょう。

#### ○海老沼委員

小山市の生井地区というところに住んでまして、ほとんどが田んぼですね。私自体も仕事は専業農家でやっておりますので、正直なところ外国の方との接点はほとんどないというのが現状です。0ではないんですけども、やはり田舎ですと外国の方を見ると、確かに、珍しがられてしまうってというのは正直なところありますよね。でも、今いろんな話をされてて、一番感じるのは、コミュニケーションがうまくとれる方法があればいいんですよ。結局お互いが知らないがゆえにどうしても、敬遠してしまうような雰囲気があるもんですから。それをうまくコミュニケーションがとれるような、今、田舎の方でも、昔はいろいろお祭りとかありましたけれども、ほとんどない状態になっていますし、ましてこのコロナになってからは、特にコロナを理由にやらない感じが見受けられるかなと。そういう意味合いでも、外国の方たちが、当然地域の人もそうだし、日本人たちと気楽にコミュニケーションがとれる方法は、ないのかというのは、すごく感じます。私たちの方も同じ日本人の中でもやっぱりもう感覚が違う人たち、当然常識も違う、本当に、同じ日本人でありながら、ここで言ったら、多文化というかね、そんな意識をやっぱり感じるもんですから、特に外国から来られた方は余計それはすごく感じると思うので、何かせつかくこういう場で皆さんの意見が聞けるんですから、お互いの立場の方から何か解決はすぐできないでしょうけども、何かいい案をここで出し合えればいいのかと思ってます。

#### ○佐藤副委員長

ありがとうございます。お願いします。

#### ○参加者

島田ってということで、すごく話したくなっちゃうんですけども、私の実家が島田です。今島田でひそかに多文化共生ムーブメントが起きてるのかなとすごく感じたんですけども、私の実家のすぐ近くに、ナイジェリアハウスというのが併設されてて、ナイジェリアの留学生が時々、学校の寮がお休みのときに、そこでくつろぐという感じで、そのときに私は交流を子どもたちと地域の方々とか、交流させてもらってるんですけど。うちの子が、たまたま失礼だけれども、肌の色が違う方に、お野菜を分けたり。正直、身近にいて接してしまえば、そんなに距離は感じなくて、私がいろいろ交流してきた中で、感じたのは、世代の方が交流するのに壁があるなってことですね。ホームステイなんかもやったんですけど、どうしても受け入れる子は若い学生だったりするので、お母さんっていうふうに見られちゃって、私の弟、ちょっと年

離れてるんですけど、アパートの友達とか留学生と一緒になるときは、言葉の壁を超えて、すごく仲良くなって逆にうらやましくて、いいなと思ったんです。

また、スポーツ、ナイジェリアハウスの前に高校生が住んで。最初は黒人の彼らを怖いなと思ったんですけども、今では彼らの心の支えになるほど、仲良く交流してまして。そのときに何が必要かって、彼の話からだとスポーツがすごく交流に壁を取り除くって話をしてくださったんですね。その時すごく感じたものが多くて。スポーツとか違ったものを取り入れながら交流する機会をたくさん取り入れたらいいんじゃないかなと思いました。

#### ○佐藤副委員長

ありがとうございます。ナイジェリアハウスのこと人から聞いてはいるんですけど、いろんな活動をなさってるみたいで、お話をお伺いできたらなと思います。

#### ○参加者

私も一緒に国際交流の活動をしておりまして、ナイジェリアハウスで外国人の留学生の方と、交流をしたりいろんな活動をしています。その他に親子が参加できる国際交流のイベントとして、子育て世代の外国人のファミリーの方や日本人のファミリーの方で、交流ができるように様々なイベント企画してやっています。

どうしてそんな活動しているかという、この海外文化と日本文化の違いを書いてあるように、学校でいじめを受けたとか、海外から来たことで、肌の色の違いとか価値観の違いとかで、いじめを受けたりとか、そういうことがあったりすると思うんですが、やはり子供たちが、多様性、自分たちの国との違いを受け入れられないところがあると思うんですね。そういうのをなくしたいと思って、いろんな文化があって、私たちの国の習慣が当たり前じゃないんだよって、知ってほしくてそういう機会を作りたいってところで、機会を作っています。私も、こちら例えば、同じ日本人の世代の違いの方が難しいなと思っているので、どちらかという、海外の人とか関係なしに慣れちゃいますし、海外の人とか日本人とか、分からなくなってくるので、そういった機会、交流するする機会を多く作るのが必要だなって思ってます。

#### ○佐藤副委員長

ありがとうございます。コミュニケーションのお話しますと、コミュニケーション不足で悩んでる方もいらっしゃる、コミュニケーションを頑張るとろうと思ってそういう活動してる方っていうのも、一方でいっぱいいらっしゃるんですね。よろしければ他にも、私こういう活動してるよっていう方がいれば、貴重なご意見としますので、お伺いできればと思うんですけども、よろしくをお願いします。

#### ○参加者

いま、16カ国ほどお友達がいて、去年の話なんですけど、市内小学校の4年生が、宿泊学習がありまして、その家族一人の家族なんですね。その夫婦はあまり日本語が話せなくて、荷物が完全に日本語で書いてありまして、その夫婦はやっぱり読めなくて。私は、個人的にその夫婦とお友達なので、ペルーの方の家に去年行かして、スペイン語とネットと動画で書き直して教えてあげたんですけど。「ぞうきん」とか「たわし」、そういったものがあるらしくて、外国人から「たわし」というのは、多分分からないと思うんですね。そのペルーの旦那さ

んが持ってくるので「これでいいんですか」って、靴のスニーカーとかたわしとか出てきたので、「これで大丈夫です」って、荷物が作れたんですが、それを調べてやっていると時間は2時間かかってまして、それが旭小学校だと、ポルトガル語、スペイン語とかに分けて、そういう荷物を宿泊学習のときに渡されているらしくて。ぜんぜんそういうのもなくて、そこが、先生たちは「分からなかったら連絡ください」って外国人に伝えてるらしいです。外国人の方たち、「分からなかったら」って言われても、こっちもどう伝えたらたらいいいのか、ペルー人の方、ぜんぜん分からないと思うんですね。私は、先生たちに、直接言ったことがあるんですが、やっぱり先生たちは、「分かりました、ちょっと相談します」って、軽くそんな言葉しか出ないんですよ。そこを変えてもらいたいなと思います。

#### ○佐藤副委員長

たわしはちょっと衝撃的でした。これは市民生活部長になるのかな。よろしくをお願いします。ご意見など等あれば、違いますか。

#### ○古川市民生活部長

今いろんなご意見を聞かせていただいたんですけども、実際に皆さんが経験されることって大変貴重なご意見だなと伺っておりました。今の宿泊学習の話もそうなんですけれども、市としてはいろんな外国人の方向けに、パンフレットであったり、そういったものを、用意しているつもりではいるんですけども、まだまだ足りないなというのを感じました。今日もそういったご意見等、各現場に持ち帰って、少しでも改善ができるようにしていければと思いますのでこれからもまだ、数時間ありますので、どしどし意見を出していただければ、ありがたいと思っております。よろしくお願いいたします。

#### ○佐藤副委員長

ありがとうございます。

#### ○参加者

2回目になってしまうんですけど、先ほど「たわし」ということが、伝わりにくかったという話を聞いて、以前勤務していたコンビニは、有名な皆さん知ってるコンビニなんですけど、本部が作成しているマニュアル、新しく入ってきた外国人がそれを見て仕事をするというものなんですけれども、このマニュアルにはバケツやモップなどすべて、写真と名前セットで出てます。なので何か国語って言われてもきりないと思うんですよ。写真をうまくたくさん入れていくことで、大分コスト的にも、削減できるんじゃないかなって思います。

#### ○佐藤副委員長

盲点でした。ありがとうございます。どうぞ。

#### ○参加者

小山の駅前に住んでおります。主人がアメリカ人です。去年の10月にはじめて出産を迎えて、自治医大に2カ月入院したんですけど、その時、栃木県内の外国籍の方が多くて、コロナ中だったので、パキスタンの方から、フィリピンの方、皆さんいらっしゃったんですけど、あまり

看護師さん助産師さん英語喋れなくて、そんな中、私が、たまたま主人がよく差し入れに来てたんで、訳してくれました。翻訳機が壊れちゃったと言われながら話したんですけど。私自身も実は中学校レベルの英語しか喋れなくて。主人と差し入れしてもらうのに、ネットでこれを買ってきてほしいんだっていうのを調べて、LINE に貼りつけて、買ってきてもらってきもらったっていうのを、絶えず繰り返した感じですね。

やっぱり、ビジュアルとか目で伝えるというのが大事なのかなと思いますし、本当に様々な国の方が多いので、英語がすごくキーワードになるのかなと、困った方が病棟にいらしたんですけど、私はいろんな方とお話だけさせていただいたりしたりしたんで、共通語・英語というのも大事にしながら、他の多言語も学べるような機会を小山市で作っていただけるとありがたいかなということです。

#### ○佐藤副委員長

貴重なご意見ありがとうございます。写真って大事ですね。そこまで考えたことが、お恥ずかしながらなかったんですけども、そういう意見を踏まえて、副市長どう思いますでしょうか。

#### ○副市長

私も目で見たものは大事だっていうのを思っています。言葉では正確に伝わらないものもあると思います。特に栃木県では、「橋」を渡る、お「箸」ってひらがなで書くと、同じなんですけど、全くものが違いますが、写真で見てもらえば 1 回で用が足ります。そういう工夫は必要と思うし、幸い世の中がそういうことに対応できる世の中になりつつあるのではないかと。皆さんスマホ、タブレット、パソコン等持ってらっしゃるし、そういう方、お家にはプリンターとかいろんなものを備えているので、情報で伝達をしてあげればプリントして、目で見ることができる。そういうことで解決できると思いますけども。我々もそういうことをやっていかなければいけないと思います。それと一番最初のお話の中で、挨拶のお話なんですけども。私も常日頃、感じてるんですけども、自分自身にもいつも問いかけているんですけど。皆さん方、街で歩いたり、どなたかにすれ違ったときに挨拶してないですよ。学校行ってる子供たちって、学校で先生がたに、そういう教育をされてるので、「こんにちは」「さようなら」って大きな声で、道路ですれ違うと言ってくれるじゃないですか。ああいう気持ちを大人になっても持ち続けてもらえるような世の中、例えば、職場の中であるとか、自分たちのコミュニティの中でも結構ですけど。そういうところから始まっていければと。私、市役所にいるもんですから、折に触れてそういうこと言ってるんですけど、自分でもできるって自信がないもんですから、なかなか難しいと思いますけれども、今日のお話を聞いてもう 1 回挨拶について考え直してみたいと思いました。

#### ○佐藤副委員長

素敵なお意見ありがとうございます。

#### ○参加者

英語で失礼します。  
(英語)

### ○佐藤副委員長

(訳)日本の文化として、回覧板が面白いと。写真とかはあんまりないですよ。写真とかがなくほとんど文字だけで。清掃作業がはっきりなしにくるんですよ。自治会で。鎌をもってきてくださいとか、汚れてもいい洋服だったりとか、書いてあるのですが。もっと面白いのが歩いて、隣の人に回さないといけないとか。そういうのも面白い。

### ○参加者

夫が言おうとしているのは、回覧板という文化自体はいいと思っている。特に地域の方と直接話ができたりとか、すごくいいものと思っている。それはぜひ継続してもらいたいと思う反面、デジタルでも見られる状態であれば、簡単にグーグル翻訳でも貼り付けるだけでもわかるので、負担が少し減るかなと。

これは、小学校のお知らせでも一緒に、外国人のご家庭に送ったときに、デジタルバージョンなら簡単に翻訳できるが、紙で渡されるとどうしようもないんです。誰かに読んでもらうしかないです。私は日本人で、夫と一緒に暮らしているから二人で助け合って、夫が分からないものの翻訳できますけど、外国語だけ日本語が話せないご家庭では、そういう意味ですごく難しいのと、夫も一人の人間なので、日本語が話せないから、私がいないと、コミュニティに参加できない、そういう訳ではないと思うので、夫一人でもコミュニティに参加できるような、うまく使えればいいかなと。先に話していただいたタブレット、オンラインで翻訳するとかそういうサービスを考えてらっしゃる、これ本当に素晴らしいことと思います。病院に勤めていてもやっぱり、翻訳者を連れて受診するのは、すごくハードルが高いです。やっぱり事業者側としても、英語ならなんとかできますけど、英語が喋れない方、ほんとにコミュニケーション難しいので、このタブレットでというのは、是非小山市でやっていると、全国にうまくアピールしていただきたいと思います。

### ○佐藤副委員長

貴重なご意見ありがとうございます。

### ○日高国際政策課長

先ほど、タブレットのことでありがとうございます。最初に私から説明させていただいたとおり、1階の相談窓口で主に使うということで、スペイン語、ポルトガル語、英語の3ヶ国語は、通訳の方いらっしゃるんですが、小山市の特徴としてそれ以外の方で、ベトナム、パキスタンの方が最近増えておりまして、英語がなかなか通じないということで、今回タブレットを来年度導入しようということになりましたので、おっしゃっていただきありがとうございます。PRして皆さんに使っていただこうと思ってます。

### ○佐藤副委員長

ありがとうございます。

### ○阿久津委員長

せっかくなので今までこういう例がどっかであったら教えて欲しいんですけど。

### ○木下多文化共生推進係長

国際政策課の木下と申します。回覧板とかタブレットの話が出てましたので、そこからお話させていただこうと思うんですけども、今、タブレットが市役所の1階にある相談室で、専用のもので使ってるんですけど。それとプラスで令和2年4月から、多言語情報の配信アプリも一緒に導入しております。そこには広報おやまで、防災ガイドブックとか市で作ってるお知らせを、多言語で掲載をして10言語で閲覧できるような形にはなっています。なかなか我々も導入したばかりで、PRがまだ追いついてないんですけども、そういったものをうまく活用していただいて、皆さんに生活の役に立つようなものをどんどんアップロードしていければいいかなと思っております。

それからピクトグラム、絵、写真とかそういった話が出たと思うんですけども、私もこういったことをやっている自治体の声をかなり聞くので、小山市でも今のこのご時世ですので、コロナの感染対策防止チラシを外国人の方向けに、国際政策課からもお送りしてるんですけども、その中でも最初は、そういうアイデアがなかったのが、多言語で文字だけで、「気をつけてください」みたいな発信をしてたんですが、やそうではなくて、絵を入れないと、「熱が出ます」よっていうのも、そうやって書いたとしてもどうなるかわからない。

それを熱が出て、苦しそうな絵を入れたりとか、体温計の絵を入れてみたりとか、全然効果が変わりますっていうご意見を、外国の方からいただいてたので、そういったものも導入して郵送とか、駅前に看板を立てたりとか行ってるんですけど、コロナだけじゃなくて、それ以外の情報もこれからピクトグラム、写真そういったものを使いながら発信できればいいなと感じました。ありがとうございました。

### ○参加者

今の件についてお伺いします。学校お知らせなんかどうなんでしょうね。そういう対象に入っているのでしょうか。

### ○木下多文化共生推進係長

学校の話まではわからないですけど、国際政策課の方で出してる情報、コロナの関係の情報とか、生活情報についてはこういったものやってるものもありますし、やろうとしてもあるんですが、学校の方まで把握しておりません、申し訳ありません。

### ○佐藤副委員長

阿久津委員長お願いいたします。

### ○阿久津委員長

学校というお話だったんですが、私も今、新設校のPTA会長やっておりまして、行政の方からいろいろしてくれることがあってですけど、うちも同じ先ほどの話の壁がありまして、どうやったら伝わるかなっていう、例えば、運動会をやる日、前の日に手伝ってほしいですっていうお知らせを流すんですけども、言葉の壁があって、それがわからなくて、来れない人とかもいるんですけど、実はこの間、60人ぐらい手伝いにきたうちの30人ぐらいが、外国の方だったんですよ。何が良かったかっていうと、私達はコミュニティスクールっていう地域の人たちが学校を支えていくっていうのをやったんです。その中で、まちこみアプリというアプリで、学校か



らも配信してもらってPTA側からも配信をするようにしたんですよ。その中に、翻訳できるようなアプリはまだ入ってないんですけども、訳してくれる人がいたので、その人にも頼んでやったという例もありますので、今後、今出た話ですごく思うところは、デジタルにしていかなきゃいけないところはたくさんあるのかなとは思いますが。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。お願いいたします。

○参加者

私、高校1年生なんですけれども、学生の観点からお話しさせていただきます。中学校時代にパキスタンの友人がいて、運営の方から説明があった通り、ウルドゥー語といって、あまり知名度が少ない言語が使われていて、その生徒間でのコミュニケーションが大変だったりっていうようなことがあったので、それぞれの学校に1人ずつ、やさしい日本語が話せる教員というのがいたら、外国人にとって言語の壁もハードルも下がるし、外国の方と生徒とのコミュニティも広がると思うので、そういった制度があるといいのかなと思いました。

もう一つ、宗教上の観点で、パキスタンの友人がイスラム教信仰しているんですけども、イスラム教は豚肉とか酒類の飲食は禁止されていて、今の日本の学校給食でも豚肉とかが使われていると思うんですけども、その友人はイスラム教信仰しているので、豚肉食べられなくて、家で保護者の方に弁当作ってもらって、毎日持ってきているということがあったので、すごい保護者の方は負担が大きいなと感じたので、ハラールフードって言って、イスラム法において、食べることができるものが定められたものがあるので、学校給食でも、そういったいろんな宗教の人が安心して学校給食を食べられるような仕組みがあったらいいのかなと思いました。

○佐藤副委員長

貴重なご意見ありがとうございます。高校1年生ということですのでいいなと思って聞いていたのですけれども。イスラム、ハラールフード都会ですとレストランなど聞いたことがあるんですけど、小山ではあまり聞かない印象がありますよね。お願いいたします。

○参加者

給食代は、その方たちはどうなってるんですか。

○篠原シティプロモーション課長

学校の方以前は作り分け、豚肉を抜くようなものを作っていたらしいんですが、現場としてはちょっとでも入ると難しいとかというのがあって、今は多分そういった対応はしていないということで、給食代も現状としては、普通にそういった方もお弁当持って来てる方も、払ってるっていうような状況になっているということです。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。お願いします。

### ○参加者

私は幼稚園の給食室で働いてるんですけど、アレルギーの対応だけでも、作る側からすごく対応したいなっていう気持ちは、給食室でもすごくあるんですけど、アレルギー対応だけでも、中に入ってみて、すごく神経を、言っていないか分からないですけど、とにかくたいへん使います。小麦アレルギーとか、魚アレルギーとか、卵、牛乳は当たり前なんですけれども、そういったアレルギーもあり、さらに今のところハラルの方は対応していないんですけど、来年度、再来年度には入ってくる予定がすでにあるので、対応どうしようかということで、管理栄養士の方がすごく一生懸命、そういった方に対応しようとしてる幼稚園ではあるんですけど、現場としては命にかかわる問題だったりするので、大変だなって正直、働いてみて感じています。でも、食べる側とか、子供のことを考えたら、同じようにとか、安全に、またアレルギーやそういったものがない子たちには、知るきっかけは作らないと思うんですよね。安全なもの全部出してしまうと、その区別が出来なくなってしまうので、そういうアレルギーを持って子がいる、ハラルという宗教上の問題があることも知ってもらうきっかけは、作りたいという気持ちは正直あります。ただ対応は大変だなっていうところは、ひしひしと感じております。

### ○佐藤副委員長

貴重なご意見ありがとうございました。こっちはただ聞いていると、対応してあげればいいのか思ってしまうんですけども、現実を聞いてしまうと、対応したくてもできないっていうものがあるっていうものもあるんですよね。お願いいたします。

### ○参加者

意見なんですけど、ハラル対応の給食の必要な子供っていうのは小山にどのくらいいるのかっていう把握はしているんでしょうか、市としては。多分そういうのがあれば、結局、各学校でそれを作るのはやっぱりものすごい労力もかかるので、できませんってなると思うんですけど、どこか一つの施設で作って、それをそれぞれの学校に1食ずつとか2食とかって配っていくっていう方法であれば、割かし効率的にできるかなと思いますし、経済的にもそんなに負担ではないかなと思うので。そういうのは、各校がみんな四苦八苦してるだけで、そこをまとめて何か対策していただければ市としてやっぱりいいかなと思います。

### ○佐藤副委員長

ご参考までに、市の職員の方が、把握はしてるのかというのは。

### ○篠原シティプロモーション課長

把握してるかは、教育委員会の方で今わからないんですけど、私が見てる限り現状としては、各学校でそれぞれ給食、何校かで一つ作っていますので。多分把握はしてると思いますが、それをすぐに市内小学校中学校、市内小学校 20 いくつ、中学校10いくつ、その中でハラルの子だけを、何人と言って、それを1ヶ所で給食を作ってやっていくってのは今の教育委員会の給食を作る形態からいうとちょっと難しいかなと。担当ではないんですけど、そういう現状かなと思います。

### ○佐藤副委員長

ありがとうございます。お願いいたします。

### ○参加者

私あまり学校の給食のこととか、給食センターの兼ね合いって、あまりというか全然知らないの、もしかしたら的外れなことを言ってしまうかもしれないんですけども。ハラールフードに関してお話を聞いて思ったんですけど。ハラールフードのお店って小山にもたくさんありますし、栃木県たくさんあると思うんですよ。なのでそういうお店にある程度、給食の起点はいろいろあると思うんですけど、何か協力してもらったりとかできないんですかね。やっぱり日本人のハラールフード、あまり食べないので、それを意識した料理を給食センターの人で作りましようって言うても、ハラールフードって本当に種類がたくさんありますし、見た目同じ鶏肉でも豚肉でも牛肉でも、本当に後ろ見ないと分からないので、お店の人とかに、相談とか協力できないかなって思いました。

### ○佐藤副委員長

貴重なご意見ありがとうございます。時間もそろそろ押してきたんですけども、ハラールのことは、正直あまり知らなかったの、そういうお店が小山にいっぱいあるっていうのも知らないし、こういう意見交換の場で一人一人がそういう情報交換だったり、意識がまた違う方向に向けてたらっていう、素敵な場だなって今改めて思ってます。お時間になりましたので、事務局の方へ進行を戻したいと思えます。よろしくお願いいたします。

### ○阿久津委員長

今出たご意見、後半戦でぜひ皆さんでガチャガチャやればなと思えますので、内容を例えればこうやってみたらどうかとか、こんなの挑戦できたらいいのではとか、そういった、後半はメインでやっていきたいなと思えます。

### ○篠原シティプロモーション課長

わかりました。ありがとうございました。それでは、前半のテーマ①については一旦ここで終了とさせていただきます、3時35分迄、休憩と換気をさせていただきますので10分ほど、休憩いたしますのでよろしくお願いいたします。

### ○篠原シティプロモーション課長

後半を再開いたします。テーマ②小山で多文化共生を推進するには、およびその他で、こちらから阿久津委員長、平野さん、戎さんよろしくお願いいたします。

### ○阿久津委員長

よろしくお願いいたします。それでは第二部の方ですね、始めさせていただきます。一部でたくさんいろんなお話出ました。

### ○篠原シティプロモーション課長

最初にご提案ということで、参加者の方が、ペーパーを皆さんにご用意したとのことですか

ら、簡単をお願いします。

## ○参加者

皆さんに提案したいんですが聞いてください。まず多文化共生社会をつくる関係で、小山市の多文化共生社会推進計画を全部読んでおります。そしてその中の、第4章の施策の展開で、ペーパーはまた後で説明します。この推進計画というのは非常によくできてると思います。これだけ、全部完成できれば、外国人の方々も、本当に小山市の一市民として、共に暮らせるのではないかなと思えるぐらい、よくできていると私は思ってます。

しかしながらですね今、皆さんが提案してくださった意見を一つ一つまとめて、この多文化共生社会の推進計画の中で、どこに該当するか当てはめてみたんですが、だいたい、「共に生きるひとを創る」という中に入っております。

ただ、第2番目の「共に働くしごとを創る」、「共に暮らすまちを創る」という、2番目3番目についてはあんまり意見がなかったかなと思います。しかし、こういう意見があるということは、この素晴らしい推進計画がまだ十分でないんじゃないかと推察します。従いまして、これを端的に行うためにどうすればいいかと、私なりに考えた方法というのは、皆さん当然わかりきってやっていらっしゃることはと思いますが、改めて皆さんに考えていただきたいと思ってます。

それで、今ほどこちらにお渡ししましたこのペーパーですね。これを見ていただきたいと思えます。一番目外国人への業績見直しとして、市の方に対するお願いといいますが、みんなで一緒にやっていきましょうという前提なんですけれども、今日は行政の方でいろいろ考えていただきたいという意味合いです。

繰り返しますが、「もうこんなことやってるよ」、「今更言わなくてもいいよ」と言われる方がいるかもしれませんが、実際にいろんな問題が起こっているわけですので、もう1回改めて、0から1回考え直してみたらどうだろうかという提案です。それで、次の条件で考えてみるとという、考え方をシミュレーションします。その際に常にSDGsとPDCAを考え方に取り入れる、そのようなこと書いてあります。要はここに、123といろいろ書いてありますけれども、もし私が、自分自身が外国人である、この日本の小山市に来て、今日から生活するということに、私は想定して、どんなことが必要なんだろうか、どういうことをやればいいのか、あるいはどんなサポートを受けなきゃいけないんだろうか、あるいはいつ頃どういうふうにしなきゃいけないんだろうとか、いろんな問題出てくると思えますので、その問題点を、今一度自分がこうであった場合、この例では自分は自分と家族のベトナム人という、例えばその設定にしてありますが、あと妻と子供、老母、表の上の方ですね、妻、子供、老母も同じベトナム人であると、そういうふうな設定です。今日、私、小山市役所にきました。例えば住民票とか、何かとらないといけません、とそういうところから始まって、まず言葉がわからない、だったらどうすればいいか、それは今小山市の中で満たされているかどうか、そういうことを考えていくと。それを1個1個チェックして、市としても問題があるようであれば、その問題に対して、どうすればいいかと検討してもらって、必要であれば、民間の人とか、会社の人とか協力を求めるとか。状況番号として、1から裏のページにもありますが、今私が思いついた内容については、いろいろ将来的に、病気になったとか子供がいろいろ問題を起こしたとか、いろんな状況がでると思えますが、その状態に対して、何をすればいいかということ、自分がそうなった場合のことを想定して、シミュレーションしていけばいいんじゃないかと思ってます。失礼しました。

### ○篠原シティプロモーション課長

すいません、ありがとうございます。

### ○阿久津委員長

ありがとうございます。あらかじめ作っていただいて、フォーラムもここまで来たかと。ありがとうございます。貴重なご意見です。このあと話の中でも、少し触れさせていただくところは触れさせていただきますし、やっていきますね。前半戦のところでもたくさんご意見が出ました。中には解決できたところもあれば、今後どういうふうにしていくのがいいかというところも、後半戦で話していければと思います。まずは、まだ話してない意見がある方いれば、どうでしょうか。

### ○篠原シティプロモーション課長

ご発言されていない方、よろしければ

### ○参加者

私は、第1部の成り行きを眺めまして、もう少し、建設的な議論をしていきたいなと思っています。一つこの場で教育委員会の方がいらっしやらないのが非常に残念です。私の子供も小学校からプリントをもらってきていますけれども、ここだけではないんですけど、学校で配られるプリントが、多言語になっているのか、なっていないのか、なってない場合に、親が理解できない、子供が読めるけど親が理解できない。これは非常にここだけじゃなく全国で問題になっています。多文化高校進学ガイダンスというのを私もサポートしてるんですけど、この参加者の方と一緒にですね、この部分で、高校進学への仕組み、日本の教育の仕組みというのが十分に理解されないまま成長しているという家庭もあります。ここに関してどこの高校に行くかという進学ではなくて、どういう日本の受験システムがあり、外国人の方はどういうふうに緩和策が受けられているのか、あるいは受けられないのか、こういったことが理解し出来てないまま、学校の現場もそこを十分に、親の方に理解させる機会がないまま、成長してる部分があります。これを解消しようと、高校進学ガイダンスをやっているわけですが、非常にここが大変足りていないと思います。まず教育の部分でアプローチをどう考えておられるのかなと、そこをお聞きしたいと思います。お願いします。

### ○阿久津委員長

今おっしゃっていただいたとおり、教育委員会の方がいればと思っております。おそらく今の質問に対して答えられる人は。

### ○篠原シティプロモーション課長

そうですね申し訳ございません。教育委員会の方いないもんですから、その答えに対して小山市の教育委員会がどうというのは残念ながらここでは答えられないです。

### ○阿久津委員長

前半のお話の中でもあったんですけども、絶対に教育とは離せない内容には今後もなってくると思うので、このフォーラムの次の在り方というところも少し見えてきたのかなという気

はします。そこら辺というのも話し合っただけでいかなきゃいけないところかなとは思いますが。うちの委員会からもですね、平野さん、教育にはちょっとうるさいと思うんですけども、今までのご意見とあわせて何かあれば。

### ○平野委員

平野と申します。私も市内の羽川小学校でPTA会長をやってまして、やはり外国人の方の娘さんの入学式とか案内がすごい複雑なんですよね。もう何時から何やって集合して、受付やって細かく書いてあって、普通に日本人の保護者が見てもよくわかんないくらいしっかり書いてあるんですよ。どうしてもその外国人の方だと、それが読めなくてそのまま来ちゃって、私服のまま入学式きちゃったりとかして、先生方も受付だったり、他のことで忙しくて誰も対応できなくて、自分が話しかけてどうしたのその服でいいのって日本語で話しかけたらよく分かんない。今日、入学式だよ、みんなランドセル背負っていつもと違う格好してるよって言ったらわかった。今から帰って戻ってくるからといって、お子さん自転車に乗せて戻ったんですけど。それを先生に伝えて、まだ1時間あるから、間に合うというお話とかっていう、やはりそういった事例があるんですよ。

私のPTAでは外国人の方向けにわけではないんですけども、日本人の保護者も文字が5行以上あると読まない。何のプリントか見てくれないっていうので、挨拶はなしにしましょう、日ごろからPTA活動に「そんなのはいりません、何のプリントか大きく書いて、何をするかをイラストとか、分かりやすく書いてシンプルにいきましょう」というような形で、配布するときも、お子さんが持ち帰らないとというのがあるので、学校で使ってるメール配信サービス、そちらの方でやはりデジタルデータで送ったりとか、そういう形にはしています。なのでそういったこともあって、外国人の方の保護者からも多少分かりやすいとか、そういう話もあるので、学校側もそういった形で考えてきてくれているのかというのは最近感じます。なので、先生方も最初お話出たように、何かあれば連絡ください、連絡ないんですよ、基本的に。だから逆にちゃんと理解したかまでを、確認して欲しいということはこちらからお願いしてあります。ただ小山市の教育委員会全体で意識統一とか、こういう事例があるよとかお話しはなかなかないようで、現場次第。現場の対応でどうにかしちゃってるってような現状と思うので、これからそのあたりもやはり皆さんの問題点を出していったら、PTAなり、学校が教育委員会からまとめて対応できたらいいんじゃないかなと思います。

### ○阿久津委員長

ありがとうございます。川名さんどうぞ。

### ○川名美香氏

回答ではないんですけど、私の学生時代の経験談にはなるんですけども、私は13歳の時に日本に来て、先ほども話したように、日本語はわからない状態で来たんです。私がいた中学校に、月に1回お弁当の日があるんです。先生に明日お弁当だよって、教えてもらったんですけど、お弁当っていうワードが分からなくて、親に明日お弁当っていうことを伝えられなかったんです。当然、次の日皆がランチタイムになるとお弁当広げるんですけど、これがお弁当って初めて知って、その時私が恥ずかしくなったんです。お弁当を分からない自分がばれるのが嫌で、トイレに逃げ込んだんです。恥ずかしくて。もちろん食べるお弁当がなかったの。当然学

校の先生とかも心配になって。探し始めたんです、全校で。私、美香っていうんですけど、校内放送で美香ちゃん出てきてとか、そうなるさらに恥ずかしくなって。出てこなかったんです。もちろんうちの親にもすぐ連絡がきて、美香ちゃん消えましたよって。親も心配して駆けつけてきてくれたんですけど。親と先生が初めて会って事情を話して、お弁当がなかったからかっていうのがあって、それ以来そのときの担任の先生はうちの親と毎日ノートって手段で。毎日じゃなくても、何か伝えたいこととかあったら、うちのお母さんベトナム人なんですけど、お母さんにも伝わるように、ひらがなで明日お弁当ですとか、明日運動会で何時から始まりますとか、明日は学校早く終わりますとか、そういった連絡をしてくださったんです、それ以降、そういった恥ずかしいトラブルとかはないんですけど。そのとき、その学校で外国人は、私だけだったので、私 1 人だからこそできた対応だと思うんですね。今逆に、同じ学校の中で外国籍の学生は何人かと言ったら、結構増えてると思うんですよ。それは学校によって地域によって変わったりするんですけど、先生の人数はそれと比例して増えてはいないと思うんです。そう考えたら、全部対応するの負担になるんです。だからといって普段、何も対応しなくてもいいのかって言ったら、私のような困る、体験する人がどんどん増えて学校に行くものも嫌って子があるので、それは、教育委員会だけの責任ではなくて、親も先生に話を聞く機会を持ったり、その周りの違う PTA の方に、そういった全体でフォローする人がいるのかなと思います。

#### ○阿久津委員長

素晴らしいですね本当におっしゃる通りだと思います。何か求めている時っていうのは、例えばどうしても市に対して言いたくなっちゃうとか、皆さんあると思うんですけども、いざ、まちレベルで考えてみて、できることないかなって思ったときに、近くのコミュニティで解決できることを、歩み寄りながらやっていくことが、今日の話の中でメインになってくると思うんですね。さっきコンビニの話あったんですけども、コンビニって必要最低限全てのものが一応揃っている、そこでの説明書っていうのは写真付きである、これはぜひこちらにも教えてくれる内容になると思うんです。例えばそのものがあれば、学校生活しかり、いろんなところで、さっきの「たわし」の例もそうですし、お弁当もそうですね。そういうことに対して、すぐ使えるような世の中。それをぜひ作っていくっていうこともあるし、コンビニの、会社がそれを出すことができるかできないかは、分からないけれども、そういうこともできたらすごくいいです。今までいろんな話が出てきた中で何か解決策とか、まだこれからこういうこともあるんだよっていう御意見、どうぞ。

#### ○参加者

日本語教師をしておりまして、多文化共生の団体の代表もしております。私以前、小学校で、外国人児童生徒の指導員をしておりました。そのときに感じたことなんですけれども、学校の中が国際化していくというか、感覚的に、そういうことが必要だなと思っております。特にスタートライン、外国の方が、私たち日本人が当たり前だと思っていることと、外国の方のスタートラインがまず違うということですね。先ほどお弁当もそうですけど、お弁当っていうと当たり前だけれども、実は当たり前ではないんだというところに意識を持っていくことを、学校の先生方が意識するということが大切で、高校 1 年生の方からもありましたけれども、やさしい日本語、コミュニケーションの取り方、それから、同じ外国籍の保護者の方の力を借りる、翻訳がないから通訳がないからではなくて、同じコミュニティの中でやってくれる方を探す、そういった

助けを保護者の中に求めるというのも必要ではないかなと思ってます。それから、保護者の方、こちらが何でもやってあげるではなくて、外国の保護者の方も自分で何とかする力を持てるような、支援の仕方が必要と思っているので、以前ありましたのは、授業参加の案内が、日本語やポルトガル語で出てたんですけども、子どもが渡していなかった。私達は、ポルトガル語で出てないから学校参観、授業参観に来なかったっていうご意見、保護者からありました。何が正しいのかっていうのが、その日本語教室で話題になりましたけれども、何でもかんでもやってあげると、なんでもかんでもあたり前になってしまう。いろんなことが、日本の学校側にも問題・課題が生じてくると思いますので、もう少しお互い歩み寄る形の課題への取り組み方が必要かなと思っております。

#### ○阿久津委員長

ありがとうございます。竹本さんも、同じような意見あればどうぞ。

#### ○竹本真誠氏

小学校、中学校、高校、いろいろ経験してるんですけど、やっぱり子供は親を頼りたくても、親は日本語わかんないとか、甘えちゃったりして、協力してくれなかったり。例えばさっきの弁当の話だとしても、お弁当、いざ親にちゃんと伝えられて作ってもらおうと思ったときに、私はペルー料理が出ちゃって。学校持っていくと何かスパイシー臭いとか。何この汚いの、そう言われちゃう言われた経験もありましたので、逆に親とか、いろんな世代に日本のお弁当とは何か。日本の教育はこういうことだよっていうのを、教えてあげた方が、すぐにどうこうなるんじゃないかと、将来的に時間をかけて、教えていった方がいいと思うんですよね。そうすれば、親もやる気が出て、その子供のために。外国人って甘えちゃう部分があるんですよ。外国人だからできない。日本語が分からないからごめんなさい。そんなことないんですよ、わかるんですよ。甘えてるだけだと思う。外国出身だからこそ言えるかもしれませんが、甘えてる部分が多いんですよ。ゴミの捨て方や日本でのルール、どうしても自分の意見が強すぎるんです、外国人って。日本人って、控えめな部分があって、まわりに迷惑をかけちゃいけないとか、そういう心の構えはあるんですけど、自分さえよければ何でもいいっていう海外の方多く見られがちなんです、そういうところもちゃんと教育していった方が、多文化共生ですから、日本の方にも迷惑かけないように、そして我々受け入れてくれるような、世の中、まちづくりになっていけばいいなと思います。

#### ○阿久津委員長

ありがとうございます。竹本さんの話は、本当に、いろんな方面から見られてて、凄く貴重になりますね。最初、いじめの話から、同じことをすれば日本ではよかったっていうね。そこら辺っていうのはすごく何か、聞いて痛烈に感じますね。

#### ○参加者

テーマ②に、そぐわないかもしれないんですけど、今の竹本さんの話を聞いていて思ったのが2つありまして、参加者の方の資料にもあるんですけども、あるべき姿というか、多文化共生、小山市にとって、多文化共生ってどういう姿を示すのかっていうのを議論が本来は必要なのかなと、感じております。そこがないと、個々の事例はとても素晴らしいし、また改善する



のに大切な内容なんですけれども、それを通して、我々はどんな生活になっていくのかというところを、どういうあるべき姿というのを、必要なのかなと思います。それから、竹本さんの話で甘えてるというのはありますけれども、例えばお母様がですねとか、お父様がおけがをされたと。ちょっと、絆創膏を貼れば治る程度ならいいと思うんですけれども、例えば骨折して長期の入院とか治療が必要になった場合どのようにフォローするのか、それは個人の問題もあるし、家族の問題もあるし、行政とかもあるでしょうし、コミュニティもあると思います。そういったところを含めて甘いとかではなくて、本来、人間としてあるべき姿、受けられるべきものは何なのか。足りないものは、何なのかというところを議論していく。皆さんの経験されたことを思いの中で、やっぱり議論していくっていうことが必要なのかなというふうにはちょっと感じました。

#### ○阿久津委員長

ありがとうございます。たくさんのご意見がある中で、今のところどうでしょうか市長。思うところがあれば。

#### ○浅野市長

今、お話が出たあるべき姿というのを、個別の事案と切り離して、皆さんで議論できるほど、多文化共生に慣れてるんだらうかというところが一つあるのかなと。ゴミ捨てでトラブってるっていうのが、各自自治会であって、そういうことも実際はほんとにトラブってる人にとっては深刻な問題なんですけれども、それを経験してないとなかなか簡単に分からないところがあったりして、やはり個別の事案という、今日いろいろ出てきてる中でも初めて聞くようなこともあったりするところでは、ある程度個別の事案についての意見交換を重ねていかないとなかなかそのあるべき姿には、たどり着けないのかという感じを私は思ってます。本当にあるべき姿というのもすごく大事なんですけれども、ある程度その個別の集積がないと、あるべき姿ということで意見を交わしても、すれ違っちゃう可能性があるかなというところでは、今日みたいな個別の事案の話が、すごく重要なのかなという感じを今の段階で持ってます。

#### ○阿久津委員長

ありがとうございます。いろいろ何かやる時は必ずアンケートを先に取って、やることあるんですけれども、今日のお話がまさにその段階のことだと思ってですね、たくさん事例をいろいろ聞いた上で、今後活用できればいいんじゃないかなというところがあります。

#### ○参加者

小山の東口の水戸線沿いの自治会長をやっておりまして、多文化共生をするために、苦労も結構しましてですね。いろいろ大きな問題があったのは、やっぱりゴミステーション、外国人が多く住んでるもんですから、日本人のゴミの収集と一緒にすると、いろいろ不満が日本人の方から出てくる。選別の仕方がよく分からないとか。そういう問題があったりしました。これを解決するためには、小山の場合は外国人の方、ほとんど雇用主、派遣会社とか、そこが窓口になって、団体で集団でアパートを借りて、そこに、何世帯か住むというようなのが、私の地域は多いんです。問題を解決してお互いに共同するためには、雇い主の方に話をして、専用のゴミステーション。住んでるところに設置させるような話を、ほとんどの雇い主にご理解もらい

まして、専属に作っていただいと。それと、自治会に入ってもらおうことが大抵条件でございますんで、入っていただいて、外国人の人たちはですね、非常に陽気な方が多いもんですから、小山には祇園祭って立派な、須賀神社のお祭りもありまして、お神輿を担ぐ行事があるもんですから。非常に外国人の方は陽気な人が多いから、神輿を担ぎたいという話はちらほら出てまして。当初は、日本人と一緒にするのはどうかなってというのがあったんですけども。そんなに心配することなく、すんなりとけ込んで、外国人も一緒に神輿を担げるような方向になってきまして、非常に今いい関係で始めています。せっかくご縁があって一緒に地域で暮らしているわけですから、そういうことを、いろんな面で。結構、日本語分かってるんですよ。ただ難しい話になると勝手に、日本語知らないということで逃げることもありますけれどもね。それなりに日本語は理解している方が多いんじゃないかなと思っていますので、いろんな課題があったら心を腹を割って話し合いのできるような方向でやっていきたいなと、思っております。ひとつは成功した事例になってくるのかなと思っています。

#### ○阿久津委員長

ありがとうございます。

#### ○参加者

私は3年くらい前から、仲間10人ぐらいと、小山多文化共生進路ガイダンス実行委員会というのを、やっています。元々、この高校入学のガイダンスというのは、12、3年前に小山市でも一度やっていたということを知っています。ただ、それから一度も行われていなくて。私達が3年前に、行ったときも、行政とか教育委員会は全く無関心という中で、この地域に住んでいる国籍の親子にとってはとても大きなことで、こんなに人口の4%も外国籍の方がいらっちゃって。お子さんがどのぐらいかかっていうのも、教育委員会は開示もしてくれないんですね。今だに。私たちはいろんな方の協力を得ながら、そして2年前に国際政策課の木下さんはじめ皆様のご協力ご理解を得ながら続けていますけれども、行政としてこれからこういう問題に対してどうのお考えがあるのか聞きたいです。私たちもう3回なんですけど、こういうパンフレット、あと外国語の5ヶ国語のパンフレットを作って、各外国籍のお子さんのいる小中学校に、教頭先生宛に、手渡しでこういうものがありますから、お子さんから親御さんに渡してくださいというお願いをしてきました。ずいぶん3年たって、協力は得られていますけれども、それも現実的には教頭先生のそのときのお考えというか、お子さんから本当にどの程度、親御さんにわたっているのかかっていうのも、まったく私たちにもわかりません。どこの国のお子さんがどのくらいいるということに関しても、はっきりしたことは、そういう開示がなされていなくて、今日は本当に教育委員会の方が見えてないというのが、ものすごくちょっと違うんじゃないて、多文化共生という、こういう大きなテーマの中で本当に、この地域に暮らして、小山市のために、日本のお子さんも外国籍のお子さんも一緒に、地域のために将来担っていく子供たちの進学ということも、もう少し地域もそうだし、一番やっぱり教育委員会なり、行政もこれからどういう方法でそういうことを、行っていくのかかっていうのも、今日お聞きしたくてきました。

#### ○阿久津委員長

ありがとうございます。今のご意見の中で、何か話せることが。今、実際やってることで、実はこういうことをやってるんだとかかっていうのがあれば。

### ○木下多文化共生推進係長

国際政策課木下です。今お話ありました進路ガイダンス、中学生の外国籍の方向けに高校の制度、どういうものとか、その受験をする上でのアドバイス、相談をしてるガイダンスになるんですけれども。国際政策課で広報とか、あとはその通訳翻訳が出来る人材をご紹介するといった形で、今協力関わりをさせていただいております。去年一昨年とか、今お話あったように、その学校の方に情報が周知できないという問題を抱えていらっしまったので、教育委員会と我々と、実行委員会の代表の方と話し合い打ち合わせを行いまして、来年度以降のガイダンスについては、広報全学校宛に、こういったものやってますよという通知を出せるところまで、何とか進められたかなというような形になってます。私もあまりそういった高校という問題があったというのも、把握してなかったので、こういった対話とか意見交換、意見共有しながら、一つ一つの問題に解決、進めていくってことは本当に大切なのかなと感じました。

### ○阿久津委員長

ありがとうございます。どうぞ。

### ○坪野谷総合政策部長

総合政策部長の坪野谷と申します。この市民フォーラムを担当しているシティプロモーション課の所属部長なんですけれども、先ほど来、一番目のテーマから引き続いて学校関係のお困りごと、それに対するご提案とか、有意義な意見交換が進む中で、教育委員会の担当がいなかったことに対して、皆様が疑問に思われている部分について、ご説明させていただきたいのですが、実はこの場に教育委員会がないのは、私ども運営する担当部署の判断で、呼んでいなかったということで、教育委員会がここに出られないとか出たくないとかではなかったということ、まず皆様にご了承いただいた上で意見交換をしていただきたい。何で呼んでいなかったかというのは、ここに全ての関係する部署を、全員呼んでというのは、市民フォーラムの人数とか会場とか性質上難しく、ここについてはあくまでもお答えまでを提示できる場ではないので、皆様のご意見を毎回フォーラムでお伺いして、当然そこで考え方とかお答えをできる範囲では、当然いる人間が市側としてお答えさせてもらう、その場においても答えられないこと、又はいなくて答えられないことについては、このフォーラムが終わった後に、庁内で今回の議論をフィードバックさせていただいて、今後の施策や事業に反映できるように、私ども担当部署の方で責任を持って、庁内で情報共有させていただいております。今回もそういった形で対応したいと思っていたのですが、皆様のご意見にございますように、教育委員会がやはりこの場にいた方が良かったかなというのは、今となっては思っているんですけれども、大変申し訳ございませんが今日はおりませんのできちんと皆様のご意見をフィードバックをさせていただくことで、ここで終わりにしないことをお約束させていただくことで、すみませんが今後の議論を続けていただければと思います。よろしくお願いたします。

### ○阿久津委員長

たくさん今まで携わってきて、いろんな思いがあると思うので、今の質問になったと思うんですけど、そこら辺というのも今後の課題になるんじゃないかと思います。今日はこの内容についてというか、いろんな意見も出していただくところにはなりますので、続けます。

## ○参加者

今回、多文化共生を進めるという、こういうフォーラムが行われたこと自体が本当に素晴らしいなと思ってます。私も外国人の方に対して、できることがあったらやりたいなと思いますけど、子供避難の家みたいな、あれを自分の個人の家で出すほどの勇氣はないですね。けどもしお店とかで、何か困ってたらそういうことに関心ありますよということが、アピールできる場所であれば、そういう何か表示があってもいいのかと思いましたし。今回70ヶ国、せっかくだからほかの65ヶ国も知りたいなっていうのが、思いました。もしどこかQRコードとかで探せばありますよっていうのがあれば教えていただきたいなっていうのと、困っている外国人の方に、ここへ行けばいいよっていうぐらいのことは言ってあげたいので、今回国際政策課と言うのも初めて知りましたので、困っている人はここでどうぞという、簡単な一番最初の入り口をたくさん、決めていただければ、これから活用させていただきたいと思います。

## ○阿久津委員長

ありがとうございます。聞けるところが分かるってということだけでも変わってきますし、今のお話だとさっき言った、ナイジェリアハウスっていうお話があったと思うんですけども。ナイジェリアハウスというのは、ナイジェリアの人がやってるんですか。

## ○参加者

日本人の小山市出身の方がやってます。ここと交流することによって、私の意識もすごく変わりましたし、自分がやってることも本当に正しいのかということも、あたりとか。理想の在り方ってそもそも必要なのかなと思って、常に世の中は変わり続けて、多文化共生って多様性を認めるということなので、それで理想の姿をつけちゃうこと自体が、そもそも違うかなと私自身感じております。常に多様に變化して、常に問題はあある、問題は起こる、それはコミュニケーションを取ろうとしているから。その時に解決できるかどうかというのを、常に繰り返し、小さくさまざま、できれば小さい感じで、問題なりトラブルなり何かを経験していけば大きな問題に繋がらないかなとか、その時対応できる力がつくんじゃないかなと思います。それが国際問題というか、日本人同士でもそれは、必要なのかなと思うときも正直感じてます。コミュニケーションを取るということ、やっぱり目的なんか正直問わない、世代なんて正直思わない、コミュニケーションをたくさん、小さくてもいいから、たくさんとることが、すごく重要だと思うんですよ。そこに理想の在り方は正直ない。そういうチャンスがたくさん作ってあげたりとか。そういうことが大切で、私市民活動を、小さい形で、たくさんいろいろやってるんですけど。そういう市民活動があることが大事だと思うんですよ。市民自体が自分で問題を見つけて、それに対して活動する、楽しむことも含めてやっていくことが非常に、理想の姿っていうか、問題もありながら、そういうことをたくさん繰り返していく。一人一人が問題に、一人一人が自分ごととして、いろんな問題に目を向けることが非常に重要と考えて、私の出来る範囲でいろんな活動してます。

## ○阿久津委員長

ありがとうございます。何かその他ありますか。

### ○参加者

今の方の意見と同感できるんですけども、自治会の受け持ちの範囲の360世帯ぐらいですけど、自治会に入られてる方、だいたい半分ぐらい。外国の方、何人かいらっしゃるそういう地域なんですけども。世代間どころか、日本人のとなりの家も分からない状態です。アパートなんかに行っても、名前で隣の方を呼ぶんじゃなくて、何号室の方と呼んでいる。外国人の方どうこう言う前に、日本人として、小山市民として、どうコミュニケーションをとるのは非常に大きな国の課題になる。自治会の中でも非常に大きな課題になっているから、当然ごみの問題も出てきますし、防災とかも問題ですね。犯罪とかそういういろんな方に対して、コミュニケーションがなかなかとれてないというのは、現実かなと思います。これはむしろ外国人の方ということではなくて、市民みんなの共通の課題になるのかなと思いました。

### ○阿久津委員長

ありがとうございます。いろいろなお話が出る中で、最後はおそらく、このコミュニケーションというところであって、挨拶というところに行きつくとは思いますがね。あと何か他に。

### ○参加者

私、このガイドブックを見させてもらいまして、よくできてるなと思ったんですけども、これは外国人の方から見て、小山市に住むためのものだと思うんですけども、この逆のパターンで小山市民が外国人に対して、どのようにして接したらいいとか、そういうことをしたガイドブックがもしあったとすれば、私としては、それ読んで、そういうことがある、こういう違いがある、こういうマナーの違いがある、ということもわかるんで、できればこれの逆パターンを作っていただければなと思いました。

### ○阿久津委員長

大変貴重なご意見だと思います。あってもいいですよ。逆バージョン先ほど来の話でも、我々日本人は勝手に思っていることがいっぱいあると思うんです。さっきの挨拶の話ももちろんそういうふうに思ってるけど、じゃあはたして外国の人たちはどうやって思ってくれてるのかなと考えたときに、全員が全員そういうわけでもないかもしれないしってところで、心意気、心構えというのは両方とも歩み寄るためにはあった方がいいかもしれないですよ、確かに、たいへん貴重なご意見かと思います。

### ○参加者

コミュニケーションで、一方がとりたいたいと思っただけでは成立しなくて、お互いに取りたいと思わないと取れないと思うんですね。翻訳とか、通訳とかそういったツールを通して、海外の方が情報を知れるようになったりとか、話せるようになったりとか、それはわかるんですけど、海外の方、受け身じゃなくて、海外の方も日本語を学ぶ機会を増やしてあげたりとか、英会話カフェとかそういうのもあると思うんですけど、それは日本人が一方向的に英語を学ぶ機会であって、海外の方そこに、含まれてなくてなくて、言語交換っていうのがあると思うんですけど、日本人は英語とかほかの言語を話す機会、海外の方は日本語を話す機会、お互いに相互で学び合う機会もあったたらいいんじゃないかなと思ってて、地域の活動に海外の方がいないのが気になっていて、私、間々田の方に住んでいるんですけど、間々田の体育祭に、一人も海外

の方いらっしゃるんですね、それがすごく気になって、そういう情報は伝わっていないし、自治会に入っていないから、それに参加できないかなと思って、そういう地域のコミュニティに参加して、コミュニケーションを多く取ればゴミ問題とか、学校の文書なども、関わりが周りがあれば、お弁当の文書、こういうの来ているとか、聞いてあげられるような、関係に繋がってくるんじゃないかなと思って、自治体レベルじゃなくて、市民レベルでやっぱり考えていく方が、よりよい関係をつなげていくのかなって思います。

### ○阿久津委員長

そうですね。情報がどこまでちゃんと、伝わっているかというのは、本当に最大だと思うんですよ。先ほど私の小学校の例なんですけれども、内容が分かっていたら、必ず参加もしてくれますし、興味も持ってくれてる人って、たくさん外国の方でもいらっしゃると思うんで、シェアする方法を、今、先ほどの回覧板の話もありましたけど、どうですか今、回覧板っていいよって思いますかね。あれが、もしデジタルになれば、それはそれでやはり日本の文化なんですよ。更にそこまで行って、もちろん携帯出して、エアドロップやればそこにポンて情報は行くので、そこに翻訳機能をつければできることだとは思いますが、そこら辺のいろんな文化の違い、日本の文化というところを、大事にしていかなきゃいけないところはたくさんあると思うので、情報をシェアするという意味で何かありますか。事例とか、はい。ありがとうございます。

### ○参加者

今までの方とダブルかもしれませんが、二つ提案があります。一つは、私、フランスに約 6 年半駐在してました。平日は仕事やってるんですけど、土曜日になると、実は私は剣道7段で、フランスはご存じのようにオリンピック、柔道、相撲に興味があったりとか、いろいろ武道に対する関心が深い国なんです。週末土曜日になると、剣道場があり、剣道、空手、柔道、合気道、居合道、これをやる立派な道場がありまして。実は私はフランスのですね、第 2 の都市リオン、このバッチはリオンものですが、そこにいまして土曜日になると、道場に行って、非常に皆さん礼儀正しい、それと、心の癒しになったのは、号令をですね、アン、ドゥー、トゥロー、フランス語で言うんじゃないかって、いち、に、さん、日本語で言うんです。その言葉を聞いて私は非常に助かった。それから、挨拶、ボンジュールではなく、こんにちはとか、礼と。ほとんど日本語。小手、面、胴とか、全部日本語なんでその言葉は聞いてると、癒しになるんです。だから、週末から何かですね、そういう癒しができる、外国の方が、いらっちゃったときに癒しのできる、活動があるといいんじゃないかなと気がしました。言葉と非常に密接な関係がある。それからもう一つは、ここに入って新しい建物なんで、当然、日本語と英語が併記してあるのかなと。ここを見たら、会議室とか、当然ミーティングルームとか、書いたんじゃないかなと思ったんですけど、英文・和文併記推進をしていただきたいと。数日前に、道の駅思川にいったんですけども、レストランに行って、英文のメニューあるかと言ったらない。それで、女房と一緒にいったんですけど、写真があるから分かるからいいじゃないか、でも値段が日本語の円で書いてあるのですね。この数字なんだと思うといけなかなから、少なくとも、写真があってメニューの名前と金額は幾らぐらいかっていうのを、書いていただく。今日遅れたのは、佐野に用事があって出かけて、渋滞があり 1 時間半佐野からここまでかかって。佐野のイオンでレストラン入ったんですけど。そこで英文のメニューがあるかと言ったらない。それなりの大手のところですから、あるんじゃないかと思ったんですよ。だから、外国の方がいらっちゃったときに、非常に悩むんじや

ないかなと、思いますんで、ぜひともよろしく願ひいたします。

#### ○阿久津委員長

ありがとうございます。フランスにいたときってというのは、特に不自由さは感じなかったんですか。日本人としてフランスに行ったわけじゃないですか、そのときに、その不自由さはない。ないということはやはり、日本が今後考えていかなきゃいけないところはたくさんあるんですよ。やっぱり、ヨーロッパなんかだとね、行って嫌だったって思いがあんまり聞かないですからね、確かに。

#### ○参加者

英語はいいですか。

(英語)

失礼しました、英語を話しました。

#### ○佐藤副委員長

ざっくりと通訳します。ずっと今まで聞いてきてて、外国人の話をして、自分たちの話なんだけれども、自分たちの意見を聞いているようで聞いてない気がしています。この話は自分たちのことを話してるんだけど、でも違うようなミーティングになっている。

意見をもうちょっと取り入れるってということなのかなと私は思ったんですけど。補足あれば。

#### ○参加者

今日はすごくいいフォーラムと思います。ですが、日本人が多いですね。外国人が少ない。分からないけど、難しいかな。例えば、日本語では一番難しいは漢字を読めると、もしこれが英語とかスペイン語とか、内容があったら

#### ○参加者

このフォーラムに参加すること、私が広報で見つけて彼に聞いたときに、何か考え僕も意見を言えるかもしれないと言って、出ようかってときに、一番はじめに聞いてきたのが、通訳するのかと。電話で聞いたらやっぱり、今回はないんです、適宜、個人で通訳してくださいって言われたんで。そこからスタートだよなって。興味があるし自分も参加したいから、ここにきてるわけで。なんか本当におっしゃる通りだと思います。外国人の感覚としたらそうなんだろうなど。

#### ○参加者

実は私、30年前に、南米に転校したことがあって、帰国子女なんですけども。日本人会はやっぱありました。このコミュニティには、例えばここに大きく挙げられている、5つの国籍の方々、コミュニティで、例えばブラジル人会とかそういったものってというのはあるんでしょうか。そういった方々の代表者だけでも、参加していただくことで、より一層、有意義な会話が出来るんじゃないかなっていうのと、一番最初冒頭で浅野市長もおっしゃってましたけども、共生というのは、いかにその日本のしきたりを学ぶという時代ではないと、素晴らしい言葉と思います。日本人が私たちが、強制して、こうしないといけないんだとかっていうふうにあるよりも、

むしろお互いどこで歩み寄れるかっていうのを、もちろん私達も、ブラジル文化とか、パキスタンの文化とか全然分からないです。ただ、さきほど食事の話とかありましたけど、何か解決策がみんなて話しあえばできるんじゃないかなというのを考えると、結構、孤立している人が多いと思うんですよね。ご自宅。私も自治医大で出会ったパキスタンの女の人のとか、本当に、家にいるだけなんだなって感じの会話だったので、そういった方々もぜひ外に出て誰かと会話ができるってそういう場所だったりとかが作れるといいんじゃないかと思いますがいかかでしょうか。

#### ○阿久津委員長

ありがとうございます。おそらくそういうコミュニティっていうのがあっても、多分知らない人が多いと思うんですよね。なのでコミュニティ作りっていうのも作ってた方がいいですよ。やっぱりさっき言った情報というのは、コミュニティがあればやはり日本語に変換して、そこで伝えられる人っていうのがいる。この人探してっていうのもすごく大事だと思うんですよ。

#### ○川名美香氏

今、コミュニティの話になったんですけど、日本に外国人たくさんいるんですけど、その多くは仕事で住む場所を変えたりするんです。そうすると会社の方がコミュニティになってしまうんですよ。実際私も今派遣会社で働いてるんですけども、普段は営業してるんですけど、どうしても、自分、日本語もベトナム語も話せるっていうことで、どうしてもベトナムのスタッフが足りないときは、私が対応することもあるんです。どういうことを対応するかといいますと、さっきも話があったんですけど、病院の対応だったり。市役所一緒に行って転入とか転出の手続きを一緒にしたりとか。クレームの対応。どういうクレームが多いかと言ったら、ベトナム人は、カラオケ非常に好きですね。ベトナム人は家にカラオケがあるのが普通なんです。日本ではあり得ない話なんです。だから音の迷惑っていうのがなくて。家で好きなときに、真夜中はさすがにあれなんですけど、みんなが起きてる時間帯であれば、歌っても ok っていう感じになっちゃうんです。それを日本に来たときに、カラオケをしちゃいけないとか、駐車場でバーベキューしちゃいけないとか、そういうことってわからないんです。だから来たときに、こういうのをしてはいけないというふうに、まず教育じゃないんですけど、伝えてあげることが一番大事になってくるんですけど、じゃあどういう手段で伝えるべきなのかという話が、さっきから出てくると思うんですけども、実際外国人が市役所に行って市役所の方が、伝えてくれるかどうかって言ったら、現時点では難しくて、なかなかゴミ出しのやり方とかも伝わらない人も多いんですけど、そういうようなときに、会社を通して伝えるってことも一つの手なのかなと思います。新たなコミュニティを作るというよりも、今あるコミュニティを活用じゃないんですけど、もっとそれを利用っていう言い方も変なんですけど、使ってよりよくしていくことのできるのではないかと思います。

#### ○阿久津委員長

ありがとうございます。そのコミュニティの作り方等もありますし。



○参加者

英語話します。失礼します。

(英語)

失礼しました、以上です。

○佐藤副委員長

(訳)外国、アメリカから来た、自分たちにとっては何が問題かっていうと、日本語が喋れないことがちょっと恥ずかしいから、ちょっと意見言いたくても言えないだったりとか。

○参加者

(訳)喋れないことが難しいってということ以上に、喋れないことによって迷惑をかけたくないという、日本人的な気持ちがある。

○佐藤副委員長

(訳)お互い遠慮しながら話ができないっていうのが、ちょっともどかしいというかそういうもの感じられるっていうのが、自分たちにもありますっていう。

○参加者

そうだね。

○阿久津委員長

この話で、そこそこがつながること自体がほっこりします。

○参加者

6年前に日本に来ましたけど、言葉は違う文化は違うけど人は人です。私たちは一緒ですね。

○阿久津委員長

すいません。もう時間なんですけど、最後にまとまりを入れてくれたような。うちの戒委員からもどうでしょうか。

○戒委員

今日は皆様のご意見聞かせていただいて、シンプルにいったらいいのではと思いました。と言うのは、行政に頼ること、そういうことを、おそらく終わる、終焉ということを検討していただいて、理想と現実の間にずれが生じているのではないかなと感じました。意識の変容というんですかね、そういうことを変えることによると、物の見方が変わっていくと思いますので、そういった個々それぞれの意識を変えていくことで、外国人とか日本人とかという距離感ではなくて、コミュニケーション以上にこれからは、カンバセーションというものも取り入れていくことで、カンバセーションというのは、お互いに一つのものをお互い共生して作り上げていこうっていう意味合いなんですけれど、コミュニケーションということはすごくいいことなんですけど、コミュニケーションの会話とか、そういった情報を得るってことに留まってしまふんで、そうではなくて、双方の困っていることを掲げて、私が、こういうことができます、相手は

ということが出来ますということ、パートナーシップを築き上げていくことが一番の解決法に繋がっていくのではと思いました。個人的に子どもが4人いるんですが、下の子二人は英語を習っているの、外国人の方とも懸け橋になってくれて。戎さんのお子さんは耳が慣れているから、英語を聞き取れるねってことで。そしたら外国の方が、どうしてそんなに英語を聞き取れるのってことで、近づいてくれるんですね。そうすると私も聞いてくださるので、お答えができて学校の困っていることも、よくメールくださるんですけど、学校の帰宅時間とか遠足の時間とかも遅延になったときに、どうしたらいいかということで相談されるんですが、そういった地域にキーマンというか、仕掛けるというか私みたいな人がいることも、認識していただくと外国人と日本人の溝が埋まって行って、違った意味での共生していけるのではと思いますので、シンプルに難しく捉えずに、挨拶一つと言いましたけれども、そういうことで近づいていけると思いますのでぜひ明日から皆さん、一秒で、笑顔で挨拶を交わすということを取り入れて、歩いて行ってほしいなと思いました。

### ○参加者

いま、「シンプル」って言葉だったんですけど、先週ですか、お天気のいいときに公園で、外国の方のご夫婦が赤ちゃんと滑り台を滑っていたんです。すごくやりたくてね、好奇心豊かな子だったんですけど、お父さんとお母さん危ないって感覚で見てたときに、通りすがりに見たときに、どうしよう私言葉できない、ちょっと2、3歩前に行ったんだけどやっぱりやめようって。気持ちを私も一歩踏み出しました。そして、「こういう滑ると危ない、こうやるとけがしない出来るんだよ」っていうことを教えたら、お父さんが分かってくれて、そういうやり方やって何か子供が遊んでる姿を見て、グーだよという感じでその場を過ぎたんですね。私は1歩前に出ることが共生なんだと、すごくその場を通じて感じたし、その後、「さよなら」って言葉を返しながら、お別れしたんですけど、親子が楽しんで遊んでるところに、日本人としてではなくて人間として、どう関わるかが大切だった。その後には、もっともっと深くなるように、どう配慮するか、私達がアドバイスすることも大事なのかなって。そんな生き方がこれから必要であって、今、世の中でウクライナの問題やっていくと、私たちの所にも移民の方がいらっしゃいます。そういうところに差別ではなく、そういう人優しく受入れられるかって、同じともに、人じゃないんです、人間なんです。言葉が違って、人間であるってことを基本に思えばこの問題なのかなという、言葉の問題、いろんな生活の問題あったけど、話を聞いているうちに、人間って私達日本人だって、生きづらさを持つてる人いますよね。そうすると外国の方も日本で生きづらいですよね。優しくどういうふうに関わってあげるか、共に一緒に生きる、この地球の中でともに仲良く生きるための根本じゃないかなと今日お話し聞きながら、私あらためて一歩、自分自身が踏み出さなかつたらいけないんだってということ、分かりました。ありがとうございました。

### ○阿久津委員長

ありがとうございます。一応40分までは討論になってるんです。その後55分までがフリートークということになってるんです。このままいいですね。

### ○ネウパネ・カピル氏

先ほどコミュニケーションをという言葉よく出てきたんですが、日本人とお話ししたら、ではこれからコミュニケーションよくとっていきましょうねって、話出てくるんですね。そうすると何

語でコミュニケーションとればいいですから、お互いもう分からないです。今回は外国人にも暮らしやすい小山にするためということ、ここまで外国人のために小山市から考えていただいたことはすごいな、みんな、ありがたいなという気持ちがあります。それで日本人はとても優しいです。みんなと仲良くしていきたいという気持ちが、思っている日本人の方が全てと思います。それでも、外国人の方には、言葉の壁があるので、先ほど言ったとおりに、今のこの会議でお互いの意見を交換しましょうということをごすよね。それで外国人の方もいらっやってるんですが、日本人から言ったこと全然わからなくて、「どういうふうに意見交換すればいいですか」ということも、先ほど言っていたので、それもすごく気になりました。あと、私も経験等、日本人の方にお願ひしたいことがありまして。私は 8 年前、日本に留学生として来たとき、日本語学校勉強したとき、日本人の方と友達になって、すごく嬉しくなって、その方と日本語喋ったら、「おはようございます、お元気ですか」って言っても、「日本語上手ですね」って言うてくるんです。それだけで上手ですから私は思うんです。その後ちよつとぐらひ話をしたら、また「素晴らしい、日本語うまいって」言うてくるんですよ。それで私よくできるかなと思つて、日本人に言った言葉を、学校の試験で書いたら×(ばつ)だったんです。それでちよつと喋ったら「日本語上手いんですね」ではなくて、「あなたの日本語ここ間違つてる」って言うてもらえれば、そこで答えなくても大丈夫です。私、調べたりとか先生に聞いたりとかすることをできます。なのではっきり言うていただくことは、私的に、ネパールのにも言うていただくことで、今後間違ひないように進めるかなと思ひます。

二つ目の経験は、現在は私は市内でカレー店経営しておりますが、カレー屋ポカラという名前の店を経営しておりますが、こちら約 5 年前の経験なんです。日本人の方友達になって、何か作つてあげたら、「おいしいですね」って言うてくるんです。本当ですか。何作つても「おいしいです」って言うてくるんですよ。本当に分かんないですね。「美味しい」って言うてくれたんですね、次回行つたら絶対同じ料理しますとレシピも書いておくんです。また次は来なくなるんですよ。その場でおいしいですねでなくて、作つてくれてありがとうございます。日本人はこういう味は好きなので、こういうふうにつつた方が、日本人が好きになるな、というふう案内してくれれば、日本人の生活が、日本人が食べるものはわかつてくるんじゃないですか。お互いによくコミュニケーションとつて、お互いの文化をシェアしながら行こうというテーマがあるんですけど、全然シェアしてるとは私は思ひないです。何しても、素晴らしい、美味しいですと説つてくるんですね。それで、はっきり言うていただくことは必要かなと思ひます。それで、先ほど、全ての方々は、外国人に協力していきたいということをおつていただいたんですが、それがすごくありがたいんです。私たちも、ここまで考えてくれたので、日本人のためにも日本のための何かやつていくからと、私も当然思つております。それでなんか思つてても、やる方法は全然知らなくて、できないです。なので私は、海外在住ネパール人協会栃木支部に、つとめております。栃木支部の副幹事長として、ボランティア活動しておりますが、その協会です、市役所とよくコミュニケーションを取つて、お互いに外国人のためにいいことをやつてあげたらいいかなと思ひます。逆に、その協会と協力して、日本人のためにも何かやつていきたいなと思つておりますので、それで皆さんにお願ひをしたいということなんです。あと話が長くなるんですが、多くの方々から、ごみ捨ての話もしていただいたんですが、やつぱり市の方に自分が転入して、住所登録したら、ごみ捨て方とかごみのチラシこれですつて、渡してくれるんです。みんな外国人の方は 9 割ぐらひ読まないです。持つてきても家に置いちゃつて、いつかそのごみ捨てのチラシはごみ箱へ入るかわかんないです。それ書いた文字だけでわかんないんです。それで、文字

で分からなければ、絵とか写真つけましょってなるんですね。写真つけてもよく分からないシステムがあるんですよ。日本のゴミ捨ては。うちの国はごみ捨て方は、全部一緒に入れて、捨てちゃうんですね。ゴミを取りに来る方がいて、その方に渡すみたいな感じなので。そこまで簡単にやっている方々は、じゃできないじゃん、こういうふうに分けてって言われてもなかなかできないです。その辺は、日本人の方に理解していただきたいということなので、私たちは日本の道路とか日本のシステムを守りながら、生活していきたいので、皆さんから協力をいただきたいと思います。ありがとうございます。

#### ○阿久津委員長

ありがとうございます。

#### ○参加者

思ったのが、こういうフォーラムとかをすると文化交流をしたいとか、英語を学ぶとか、日本人が便利に外国人から何かを得るとかそういう方向に行きがちかと思うんですけど、本当に多文化共生って、小山市住んでいる外国の人もみんなが同じ市民として仲間として、市をよりよくしていくために一緒に考え、一緒に住んでる仲間という、そういう意識をもって実際、地域と取り組んでいくっていうのが、真の意味だと思うんですね。そういう意味ではやっぱり、さっき言ったコミュニケーションの齟齬とかがあるのを良くする具体的な、その案としては自治会に必ず入ってもらうとか、例えばPTAも外国の人とか、多分役員やらせてないと思うんですね。役員を外国の人もやってもらいましょう、コミュニケーションが出来ればいいんですから、日本語が英語が喋れなくても、結局やるように努力するように促したりとか、一つ私案があって、清掃活動ってすごくいいんじゃないかなと思っていて、地域で自治会を主体として、それぞれのコミュニティを日本人と外国人も一緒に、日曜日に 1 時間ぐらいゴミ拾い活動をするとか、うちの地域はほりざらいとかやるので、夫に全部行ってもらってるんですけど、すごく知ってもらう機会になってすごくいいんですけど、そういうのを市全体でやればきれいになるし、ゴミの分別とかも教えればいいです。そういのはすごくいいんじゃないかなと思います。もう一つだけ、プラスチックさらさら、次のステップとして、私が知り合ってる夫の友達とかですね、もともと夫は英語の教師として働いて、今は全然違うインターネットの世界で普通のことやってるんですけど。日本にいと、外国人、外国語の教師としてしか働けないとか、雇用される場所ってものすごい偏ってると思うんですね。本来は本当に多文化共生をやりたいのであれば、就職機会にもっとバラエティー化させるべきだと思うんですよ。小山市でも、もしということ考えていただければ、コンビニではなくて、銀行に外国人が普通に就職してもいいわけなんです。そういうのがもっと進んでくれば、本当に真に多様化してることになるのかなと思うので、その部分に達するには、まだステップがいると思いますけどまずは、清掃活動などから、壁をくずしていくってことをやっていくといいかなと思いました。

#### ○ネウパネ・カピル氏

先ほどゴミのことで私からも言ったんですが、私もこのことを気になってるんです。この前私達の協会、海外在住ネパール人協会です都宮を清掃活動しました。それで今後、小山市でも清掃活動しようと思って、本当は 3 月にする予定だったんです。それは国際政策課とお話を今進んでいる状態なんです、そちらも 3 月コロナが増えてきましたので、その清掃活動をこ

れから4月にしようかなと思っておりますので、そうすると、そのタイミングで日本人の方も参加していただければ、ごみの分別とか全部教えてくれれば、皆それぞれの自分のアパートとか、自分の家でも、分別しっかりできるかなと思いますので、4月に清掃活動を行う予定なので、皆様、よろしければ参加していただきければと思います。よろしく願いいたします。ありがとうございます。

#### ○阿久津委員長

ありがとうございました。今、たくさんご意見が出て、最後もうちょっと前の時間の段階で議論できたらよかったです。本当にすごいろいろなたくさんの意見が出て、これからこれを生かすも生かさぬも、今後の活動になってくると思いますので、ありがとうございました。時間が限られてる中でまとまらなかったところもあるのですが、最後に市長からご挨拶をお願いします。

#### ○篠原シティプロモーション課長

ありがとうございました。それでは最後に市長からご挨拶を申し上げます。よろしくお願いいたします。

#### ○浅野市長

今日は長時間ありがとうございました。本当に3時間ぐらいの間に、いろいろお話聞いている中で、本当に目から鱗という部分もあるのかなと思っております。お互いが意識している中で、本当に言葉が喋れないことで迷惑をかけてるんじゃないのかなっていうのが本当にね、外国の方も日本人も同じような気持ちでなかなかコミュニケーションがとれてないという現実があるんだということもございましたし、また日本人として、日本語は上手だとか、料理がおいしいとか、つつい褒めてしまうっていうとですね、決して正しいコミュニケーションのとり方では必ずしもないんだというようなことも本当にこう言われてみて、そうだなというふうに感じられました。まだ具体的にはこれからの共生を考えたときに、自治会とかPTAとか、清掃活動あるいはもう就職の機会とか、いろんなレベルで考えていかなきゃいけないんだと、いうようなところで本当にこの市民フォーラムもある意味、多文化共生の実践の場になるような市民フォーラムにしていくことが必要なのかなというところでは、これから例えば運営委員の方の中にも、外国籍の人に入ってもらうとか、いろいろそういうふうなこともあるいはこの結果についての情報提供を翻訳してみるとか、いろいろそういうことも考えていきたいなと思っております。それとまた進学ガイダンスの関係されてる方から、今回教育委員会が来てないということでご指摘を受けましたけれども、一昨年昨年ということで、この進学ガイダンスについては、いろいろ要望も受けまして国際政策課の方で、対応をする形をとっております。その中で、教育委員会の方では、個別の進路指導とガイダンスの繋がりというところで時期的な問題とか、そういうところもあるんだみたいなことも、教育委員会の方で指摘があって、そこら辺についてはまた改めて相談してというふうにも考えることもございますし、またこういう場でなくても随時国際政策課に言っていただければ、その都度いろいろお話を聞いた上で、改善していくところは改善してくということも動いておりますので、ご利用いただけたらと思っております。本当に多文化共生を取り組みましょう、じゃあ半年で目標でこのくらい、1年で目標このくらいということで、その目標通りに進むかという決してそういうことではなくて、本当に少しずつ少しずつ、お互い胸襟を開いていろいろ話をする、そしてまた体験を共有することで進んでいく

んだろうと思います。ですから、本当に今の子供たちが 20 年後 30 年後になったときに、ここまで進んだというようなことが言えるような積み重ねを私たちが続けて行くしかないのかなというところで、今日、第 1 歩としてこれからも多文化共生について小山市でもしっかりと、取り組んでいきたいと思っておりますので、引き続き皆様のご協力いただけたらと思います。本日は本当にありがとうございました。

○篠原シティプロモーション課長ありがとうございました。最後に市民フォーラムアンケートをご用意しておりますので、ご記入いただき受付にお渡しくださいますようお願いいたします。また帰りは職員が誘導しますので、西側のエレベーターの方からお帰りくださいますようお願いいたします。それでは長時間にわたりまして令和 3 年度第 3 回小山市民フォーラムを終了いたします。大変お疲れ様でしたありがとうございました。